

『手習学往来』漢字索引

三宅 ちぐさ

凡例

原本

この索引は、東京大学附属図書館蔵『手習学往来』によって作成した。加えて、神奈川県立金沢文庫蔵『手習覚往来』のみにある序(実は跋か)、および、独自の内容である十二月状(冒頭部分)は欠損している)をも対象とした。ただし、これは、原本の閲覽を認められなかったため、『金沢文庫テーマ展図録 秘儀伝授』(神奈川県立金沢文庫編 平成四年)に所収された写真によっている。

目的

この索引は、原本の本文と序(実は跋か)における全ての漢字を検索することを目的とする。

体裁

見出しの項

一、配列

(1) 原則として、『大漢和辞典』の編次(部首・畫数)に従って配列する。

(2) 『大漢和辞典』に掲載されていない漢字の場合は、△印を付し、該当する部首・畫数の後部に配列する。

(3) 「々」は、該当する漢字として配列する。

(4) 同一見出しの内部は、原本における記載順に従って配列する。

(5) 異体字・俗字等と考えられる漢字がある時は、それも場合に
より参考項目として挙げて、部首・畫数でその所在を示す。

『手習学往来』漢字索引

(6) 判読不能の文字を最後に記す。

一、字体

できるかぎり原本の表記を尊重しつつも便宜に従う。

本文の項

一、紙幅の許すかぎり、漢字の用法が判断できる程度の本文を添える。

一、表記については、原則として原本通りとする。ただし、字体については便宜に従う。

一、附訓・注記・引合等もできるかぎり原本通りに記す。

一、訂正がある場合は、その結果の方を対象とする。それは次の一例である。

例 「例」に似た文字の右側に「ヒ」等とあり、下に「例」と改めて記してある。

四三六 二六一五

一、誤字・誤写などについては、本来の表記と考えられる形を私注として示すこともある。

一、虫損・欠落などで不鮮明な場合については、丸括弧を付して示す。

一、判読不能の場合は丸括弧のみを記す。

一、神奈川県立金沢文庫蔵『手習覚往来』の写真により確認できた四月状の「念書出様行云」から八月状未までと、東京大学附属図書館蔵『手習学往来』の該当部分の校合結果についても、私注として示す。

『手習字往来』漢字索引

一、見出しの漢字が複数含まれている場合のみは、該当の文字に波線を付す。

検索の項

まず、序あるいは月名の数字を記す。次に、全体に付した行数を示す。見出しの漢字が神奈川県立金沢文庫蔵『手習覚往来』に独自の部分である場合は、序あるいは月名数字の前に「金」と記す。

更に、参考までに、日本教科書大系 往来編 第二卷 古往来 (二) (石川 謙編 昭和四十二年 講談社) に掲載された翻刻におけるページ数・行数も併記する。

部首目次

一画

一部

丨部

丶部

丿部

乙部

丁部

二画

二部

十部

人部

一 一畫 七 10頁

三畫 不・与 四畫 且・世 七畫 並 二畫 万・三・上・下 19頁

三畫 中 12頁

四畫 主 12頁

一畫 乃 二畫 久 三畫 之 12頁

四畫 乍 六畫 厖 13頁

一畫 九 二畫 也 13頁

一畫 了 三畫 予 五畫 争 14頁

七畫 事 14頁

二 一畫 于 二畫 云・五 15頁

四畫 亦 15頁

人 二畫 今・仍・仏 15頁

三畫 仕・他・付・代・令・以 四畫 仰・件・任 15頁

五畫 似・但・住・何・作 六畫 併・例・依 15頁

七畫 俗・信 八畫 候 九畫 假・偏 15頁

儿部 十畫 備 十一畫 傳・僧 19頁

入部 四畫 先 五畫 免・兔 19頁

八部 入 二畫 六 六畫 其・具 19頁

門部 八 二畫 六 六畫 其・具 19頁

几部 二畫 内 19頁

凵部 一畫 凡 19頁

刀部 三畫 出 20頁

力部 二畫 分・切 五畫 初・別 六畫 到・刻 20頁

七畫 則・剋・前 十三畫 劇 20頁

十畫 勝 力 三畫 加 四畫 劣 21頁

十部 十 十一畫 勢 21頁

冂部 十畫 卿 一畫 千 21頁

厂部 七畫 厚 八畫 原 21頁

厶部 三畫 去 22頁

又部 22頁

【手習字往来】漢字索引

三画	又	二畫及	六畫取	22頁
口部	二畫古・只・可・右	四畫否	五畫命・和・咎	三畫合・吉・同・名
七畫哥・唐	八畫問	九畫善・喩		
十二畫器				
土部	二畫四	三畫因	四畫困	25頁
三畫在	四畫坊	七畫垂		
十二畫墨	十三畫壞 <small>注：「懷」の誤写か。</small>			
夕部	二畫外	三畫多		25頁
大部	五畫奉	一畫天・太	二畫失	25頁
五畫	六畫奏			
女部	十畫嫌	三畫好・如	五畫始・委	26頁
子部	子	三畫字・存	五畫季・学	27頁
六部	五畫宗・定	七畫宮・家	八畫宿・寄	28頁
十一畫實	十二畫審・寫			
寸部	寸	三畫寺	七畫将	28頁
小部				29頁
尤部	五畫尚	一畫少	二畫尔	29頁
山部	一畫尤	八畫崎		29頁
工部	二畫左・巨	七畫差		29頁
己部	已	六畫卷		29頁
巾部	四畫帟	六畫帝	七畫師	29頁
八畫常				
干部	三畫并	五畫幸		30頁
幺部	二畫幼			30頁
广部	五畫底	六畫度	七畫座	30頁
十二畫廣				
升部	一畫廿	十二畫弊		30頁
弓部	弓	七畫弱	八畫強	30頁
彡部	四畫形			30頁
彳部	五畫彼・往	六畫後	七畫徒	31頁

皿部 九畫 盡	白部 白 四畫 皆	疒部 五畫 疾	六畫 畢·畧 七畫 畫	由·申 二畫 男	田部 用	用部 用	生部 生	甘部 甚	王	玉部 王	五画 三畫 狀	犬部 四畫 物	牛部 四畫 物	爪部 爪	八畫 無·然	三畫 災	火部 七畫 消	八畫 深	十畫 漢	六畫 烏	九畫 煩	五畫 為	七畫 狹																								
44頁	44頁	44頁	43頁	43頁	43頁	43頁	43頁	43頁	43頁	42頁	42頁	42頁	42頁	41頁																																	
糸部 四畫 紙·素	米部 五畫 粗	十四畫 籍	八畫 箇	六畫 筆·等·筋·筒·答 九畫 箭·篆·篇	竹部 竹	六画 八畫 豎	立部 立	穴部 穴	十三畫 穢	五畫 秘·秦	二畫 私	禾部 三畫 社	示部 四畫 砂	石部 四畫 砂	矢部 三畫 知	五畫 真	目部 目	三畫 直	四畫 相	七畫 短	七畫 程	七畫 季	五畫 祐	九畫 碑	十一畫 磨	十一畫 積	四畫 科	九畫 福	六畫 章	十畫 窮	七畫 童	七畫 節	五畫 第	三畫 瞻	五畫 細·終	六畫 結·給	47頁	47頁	46頁	46頁	46頁	45頁	45頁	45頁	44頁	44頁	44頁

色部	艮部	臼部	至部	自部	臣部	肉部	耳部	而部	老部	羽部	羊部	网部
一畫 良	九畫 興	至	自	臣	六畫 能・脇	五畫 聊	而	老	五畫 習	三畫 美	八畫 置	七畫 經
	十畫 舉			二畫 臥		八畫 聞		四畫 者		七畫 義		八畫 緒
						十六畫 聽						十畫 繁

車部	身部	足部	走部	貝部	言部	見部	而部	衣部	行部	虎部	艸部
五畫 𨋖	六畫 跡	三畫 起	五畫 貴	十畫 謗・譎	四畫 許	七畫 見	三畫 要	四畫 衰	五畫 處	十三畫 薄	五畫 若
		八畫 趣	八畫 賢・質	十一畫 謬	六畫 詩・詮・誠	五畫 覺		五畫 被		十五畫 藤・藥	六畫 草
					九畫 謂	九畫 覽					十畫 蒙・蒼
51頁	51頁	51頁	51頁	51頁	50頁	50頁	50頁	49頁	49頁	48頁	48頁
55頁	55頁	55頁	55頁	54頁		53頁	53頁	53頁	53頁	52頁	52頁

青部	雨部	佳部	阜部	門部	長部	金部	八画	里部	邑部	辵部	辰部	車部	非部					
青	四畫 雲	四畫 集	九畫 隨	六畫 限	四畫(開) ・間	長	二畫 針	二畫 重	六畫 郎	十二畫 遣	八畫 進	四畫 近・返	六畫 農	八畫 輩	車	二畫 軍	七畫 輔	非部
	十一畫 霧	九畫 雖		七畫 陣			六畫 銘	四畫 野	八畫 都	九畫 達	六畫 迴	七畫 通・造・連						
	十二畫 露	十畫 雙・難		八畫 隆			十一畫 鏡	五畫 量		十畫 遣・違								
	58頁	57頁	57頁	57頁	56頁	56頁	56頁	56頁	56頁	56頁	55頁	55頁						
魚部	十一画	髟部	高部	骨部	馬部	十画	食部	飛部	風部	頁部	音部	面部	九画					
魚	二畫 髡	高	骨	十二畫 驚			食	飛	風	十二畫 顧	六畫 頤	音	面					非
							七畫 餘				九畫 題・額・類	十一畫 響						
	十二畫 鱗																	
	59頁	59頁	59頁	59頁	59頁	59頁	59頁	59頁	58頁	58頁	58頁	58頁	58頁	58頁	58頁	58頁	58頁	58頁

『手習字往来』漢字索引

一部

積季六十一老法師之、
每事不一。
又於一切事、有難有咎。
注：金沢文庫本によると、「一切」の後に「之」とある。

一 蒙仰者、
厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。
厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。
一日御消息思、忘、不令申事、
手習初心之時、以車雙帟為第一。
一文字形、疾吉。

都、自一字能習、
喻、自強力一人、弱輩万人勝様、
一字、能力、千字、不被書。
愚習以千字之力、不得書無一字者也。
十一月廿五日

一部

七月晦日
九月廿七日

一部

二畫
喻、自強力一人、弱輩万人勝様、
彼三様者、自何時代一起哉。
三月廿六日
彼三様内、十八形定。
右三箇條子細、予承定、
厚薄之字者、以三字為本ト、
注：金沢文庫本によると、「厚薄之」の「之」はない。また、「者以」は確認不能。

金序 2 二五九 4

四 42 二六一 8

五 48 二六一 13

六 58 二六一 4

七 66 二六一 11

八 94 二六一 3

九 94 二六一 3

十 94 二六一 3

十一 100 二六一 6

十二 101 二六一 7

十三 102 二六一 7

十四 103 二六一 8

十五 103 二六一 8

十六 111 二六一 1

十七 71 二六一 14

十八 89 二六一 14

六月三日

三筆跡水付無煩吉。

十二月三日

已上彼此十八形也。

垂露、懸針、定、給、上、不可有別風情歟。

薄墨者有行上。

仍重而言上。

次經書上書、可隨内題。

又筆、○筆、卷上、筒筆、唐筆、

亦本字之上、置同寸方量。

彼量、上六字故字形易、覺吉。

必上字、可續。

無上字者不其限。

然乍置上字、上、不續。

然乍置上字、上、不續。

上字、自連後者下置、不難。

六 64 二六一 8

七 95 二六一 3

八 95 二六一 3

九 40 二六一 7

十 54 二六一 2

十一 66 二六一 11

十二 66 二六一 11

十三 59 二六一 5

十四 77 二六一 3 4

十五 85 二六一 11

十六 97 二六一 5

十七 98 二六一 5

十八 115 二六一 4

十九 115 二六一 4

二十 115 二六一 5

二十一 116 二六一 5

二十二 116 二六一 5

二十三 117 二六一 5

二十四 117 二六一 5

二十五 109 二六一 13

二十六 116 二六一 5

二十七 116 二六一 5

二十八 116 二六一 5

二十九 117 二六一 5

三十 117 二六一 5

三十一 117 二六一 5

三十二 117 二六一 5

三十三 117 二六一 5

三十四 117 二六一 5

三十五 117 二六一 5

三十六 117 二六一 5

三十七 117 二六一 5

三十八 117 二六一 5

三十九 117 二六一 5

不 良久不申承、朦朧甚深。

不審々々。

不審々々。

纒抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。

真、不通草。

々(草)又不通真、故也。

餘、不通一、歟。

心事不備謹言

令書寫之時、不知子細、

每事不一。

又墨續、若所續、所不續候哉。

彼子細者、文字不候歟。

垂露、懸針定給上、不可有別風情歟。

注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

有、得筆、薄磨不得厚、可磨。

此二様返、為、非能書磨不得。

注：金沢文庫本によると、「磨不得」は「厚磨得」とある。

厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。

如此事等不申承者定御没入、之後、

一日御消息思、忘、不令申事、返々遺恨候。

不知巨細。

徒、書穢、且者壞、由緒不知謗。

注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。

栄福者、不可違本様。

如此不令申問候、依難知、

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

不打紙、可書之。

喻、筆勢与書、態不舉慎、憚故也。

正 2 二五九 10

正 2 二五九 10

正 2 二五九 10

正 8 二五九 12

二 17 二六〇 5

二 17 二六〇 6

二 18 二六〇 6

二 19 二六〇 7

三 25 二六〇 12

四 42 二六一 8

五 47 二六一 12

五 49 二六一 13

六 54 二六一 2

六 55 二六一 3

六 57 二六一 3

六 58 二六一 4

七 65 二六一 10

七 67 二六一 11

七 68 二六一 12

七 69 二六一 12

八 73 二六三 1

九 87 二六三 12

九 88 二六三 13

十 91 二六四 2

十 93 二六四 2

一字、能力、千字、不被書。

愚、習以千字之力、不得書無一字者也。

誠依少童、愛憐、聊不恐高覽。

故不知無下。

假字難者、不・天・留・可・郎・尔・

無上字者不其限。

然乍置上字、上、不續。

上字、自連後者下置、不難。

不備謹言。

(前欠) 山不同可書也。

委并不面談者、難申盡候者也。

注：日本教科書大系は、「并」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

委、蒼頡六十四篇与大師、筆注集、

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六

十」とある。

喻、筆勢与書、態不舉慎、憚故也。

但与依仰事注申。

一部 四畫

且 然而且、興隆仏法、可有御存知候。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

徒、書穢、且者壞、由緒不知謗。

注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。

且為招災得科計、歟。

注：金沢文庫本によると、「歟」は「也」とある。

世 出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々

出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々

一部 七畫

並 二行並書籍、自此品起。

十 102 二六四 7

十 103 二六四 8

十 105 二六四 11

十一 109 二六四 13

十一 114 二六五 4

十二 116 二六五 4

十二 116 二六五 5

十二 117 二六五 5

十二 117 二六五 5

十二 117 二六五 5

金 112 85 二六五 9

金 121 93 二六五 12

四 41 二六一 7

十 93 二六四 2

十二 113 二六五 3

五 45 二六一 11

七 69 二六一 12

七 69 二六一 12

七 69 二六一 12

金 序 5 二五九 5

金 序 6 二五九 5

金 12 85 二六五 9

二 六五 9

『手習字往来』漢字索引

一 部 三 畫

真行草之中、何可令始習候哉。

正 6 二五九 11

廣、以中大指、取能程也。

十 99 二六四 5

部 四 畫

詩哥文等無畫者、時景季、或可令隨主好也。

八 77 二六三 4

但信草、隨主書事、常、法例也。

八 79 二六三 5

ノ 部 一 畫

注：金沢文庫本によると、「當」は「當」とある。また、「書」は「之」か。

ノ 部 二 畫

乃、乃寺別當僧都御坊

二 21 二六〇 9

久 二 畫

良久不申承、朦朧甚深。

正 2 二五九 10

ノ 部 三 畫

右依少髧之要用、

二 21 二六〇 9

老法師之手習學問之、条付奉問答。

金序 1 二五九 4

老法師之手習學問之、条付奉問答。

金序 2 二五九 4

出世之、習字者限命、世間之、農桑入穴云々

金序 3 二五九 4

出世之、習字者限命、世間之、農桑入穴云々

金序 5 二五九 5

因之、為後代之、少童等、任問非之次第、

金序 6 二五九 5

因之、為後代之、少童等、任問非之次第、

金序 8 二五九 6

因之、為後代之、少童等、任問非之次第、

金序 9 二五九 6

御披見之類思可令加直筆給候

金序 12 二五九 7

注：日本教科書大系は、「御披見之口、口思可令加直筆給候」とする。

真行草之中、何可令始習候哉。

正 6 二五九 11

纒抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。

正 8 二五九 12

纒抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。

正 8 二五九 12

委細被仰候者、生前之大幸令存候。

正 9 二五九 13

每事期面拜之時候。

正 10 二五九 13

得筆自在之後、可令習真書也。

二 15 二六〇 5

真行草之趣、委承候畢。

三 22 二六〇 11

額、碑銘等之字、形、令書寫之時、

三 24 二六〇 12

額、碑銘等之字、形、令書寫之時、

三 24 二六〇 12

難書候之間、當時者似無要、

三 25 二六〇 12

恐々、事之由、所奉令申問也。

三 26 二六〇 13

蒼頡之後、烏王傳之。

四 31 二六一 2

蒼頡之後、烏王傳之。

四 31 二六一 2

行書者烏王之後、

四 32 二六一 3

秦軍連々忿劇之時、

四 33 二六一 3

齡者大臣之間能書、物念、書出様、

四 33 二六一 3

令申押返之条、狹所可思食事歟。

五 44 二六一 11

及、意、程争惜之、可秘之哉。

六 52 二六一 1

及、意、程争惜之、可秘之哉。

六 53 二六一 1

注：金沢文庫本によると、「可秘之哉」は「可令秘之候哉」とある。

厚薄之字者、以三字為本、

六 60 二六一 5

注：金沢文庫本によると、「厚薄之」の「之」はない。また、「者以」は確認不能。

貴殿、御生存之時、

七 65 二六一 10

注：金沢文庫本によると、「貴殿御生存」は「貴殿之御存」とある。

如此事等不申承者定御没入、之後、

七 66 二六一 10

初額、諸寺諸社之瞻古額之躰、

八 73 二六三 2

初額、諸寺諸社之瞻古額之躰、

八 74 二六三 2

注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

名詮自性之故、依額躰所繁昌有人。

八 74 二六三 2

扇等以同之。

八 77 二六三 4

令申之間義惜、由困、定、可思食事、

八 81 二六三 6

注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

又弊僧之随思出申候間、

兎筆、麁筆之間、結様有和強。

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

任仰旨粗注進之。

崎以如針、可書之。

不打紙可書之。

手習初心之時、以車雙帟為第一。

亦本字之上置同寸方量。

搜字、横堅之趣、

愚習以千字之力、不得書無一字者也。

無其事令申子細之条、

無人氣之間、重而令申候。

我朝、高野、大師、御作候之間、

能書相傳之人之假字、

能書相傳之人之假字、

乍立念々書出様名ニ草書也。

注：金沢文庫本によると、「乍立」の「立」はない。また、「也」部分が欠損している。

依難知、乍恐、度々奉驚高聽之条、

然乍置上字上、不續。

六畫

垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、厖爪是也。

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。

乙部 一畫

九 九月廿七日

郎・尔・也・六・美九字、必上字可續。

乙部

也

二畫

實此語得據者也。

得筆自在之後、可令習真書也。

行勝、易真草者也。

行者真假躰、草骨目也。

々(草)又不通真故也。

恐々、事之由、所奉令申問也。

乍立念々書出様名ニ草書也。

注：金沢文庫本によると、「乍立」の「立」はない。また、「也」部分が欠損している。

大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。

古文、生様、意形、真様、例書是也。

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

齡書内、畧點、朽書等是也。

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、厖爪是也。

注：金沢文庫本によると、「真」は「信」とある。

已上彼此十八形也。

見明鏡也。

厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。

墨置何處、可嫌也。

是如次、當真行草也。

注：金沢文庫本によると、「真」は「信」とある。

衰弊者也。

能々請談計、可令書也。

金序 7 二五九 6

二 15 二六〇 5

二 16 二六〇 5

二 16 二六〇 5

二 17 二六〇 6

三 26 二六〇 13

四 35 二六一 4

四 36 二六一 5

四 37 二六一 5

四 38 二六一 6

四 40 二六一 7

『手習学往来』漢字索引

時景季、或可令随主好也。 八77 二六三4

古文、草文、併可随内題也。 八79 二六三5

但信草、随主書事、常、法例也。 八79 二六三5

注：金沢文庫本によると、「常」は「當」とある。また、「書」は「之」か。

其趣、拂底難申候也。 九84 二六三10

草書、梵字等、砂、可習也。 九92 二六四2

諭、筆勢与書、態不舉慎、憚故也。 九93 二六四2

廣、以中大指、取能程也。 十99 二六四6

都、自一字能習、千字愚習申也。 十101 二六四7

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

愚習以千字之力、不得書無一字者也。 十103 二六四8

可有御心得也。 十103 二六四8

皆人、被知食事也。 十二113 二六五3

尔・也・六・美九字、必上、字、可續。 十二115 二六五4

(前欠) 山不同可書也。 金十二85 二六五9

續吉為習者、付字可好也。 金十二90 二六五11

能書相傳之人之假字、有字無續也。 金十二91 二六五11

注：日本教科書大系は、「續」を「積」とする。

案合此二筋、以有文字、可為本也。 金十二93 二六五12

委并不面談者、難申盡候者也。 金十二94 二六五12

注：日本教科書大系は、「并」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

了 仰遣条々事等、併承了。 八72 二六三1

注：金沢文庫本によると、「承」の後に「候」とある。

了部 三畫 右三箇條子細、予承定、及、意、程争惜之、 六52 二六二1

予部 五畫 右三箇條子細、予承定、及、意、程争惜之、 六52 二六二1

争部 右三箇條子細、予承定、及、意、程争惜之、 六52 二六二1

事 七畫

書字事無窮。 正4 二五九10

每事期面拜之時候。 正9 二五九13

心事不備謹言。 二19 二六〇7

恐々、事之由、所奉、令、申、問、也。 三26 二六〇13

所仰遣候處文字、様、云、事、 四29 二六一1

每事不二。 四41 二六一8

無指事故、令申押返之条、 五44 二六一11

注：金沢文庫本では、「無指」部分が欠損している。

令申押返之条、狹、所、可、思、食、事、歟。 五44 二六一11

又於一切事、有難有咎。 五48 二六一13

注：金沢文庫本によると、「一切」の後に「之」とある。

抑文形事者、 六53 二六一1

墨、厚、薄、事、有、得、筆、 六55 二六一2

次墨續事者、 六58 二六一4

次字難事者、 六61 二六一6

如此事等不申承者、定御没入、之後、 七65 二六一10

一日御消息思、忘、不令申事、返々遣恨候。 七67 二六一11

每事期後信。 七70 二六一13

仰遣条々事等、併承了。 八72 二六三1

注：金沢文庫本によると、「承」の後に「候」とある。

但信草、随主書事、常、法例也。 八79 二六三5

注：金沢文庫本によると、「常」は「當」とある。また、「書」は「之」か。

令申之間義惜、由、困、定、可、思、食、事、 八81 二六三6

注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。 九88 二六三13

無其事令申子細之条、 十一105 二六四11

奏帝王申事、可為等同者、歟。 十一106 二六四11

諸事免許者、為自他、幸。
只有此事歟。

右仰遣、假名字、事、
皆人、被知食事也。
但与依仰事注申。

二部

去月十六日御札今月二日到来。
餘不通二歟。

二月六日
此十二様惣合為六、
每事不二。

一二蒙仰者、
此二様返、為二非能書、
二字、自無、咎二云々。

二消息先長吉。
十二月八日

二行並書籍、自此品起。
案合此二筋、以有文字、可為本也。

十二月三日
一畫

二部

于
只任于畫意云々。
注..金沢文庫本によると、「畫意」は「書意」とある。

二部

二畫
老恥天下響云々。
老恥天下響云々。

注..日本教科書大系によると、「天下」は「關山か」ともある。
出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。
出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

金序 5 二五九 5
金序 5 二五九 5
金序 7 二五九 6
金序 7 二五九 6

『手習字往来』漢字索引

十一 107 二六四 12
十一 108 二六四 12
十二 112 二六五 3
十二 113 二六五 3
十二 114 二六五 3

十二 13 二六〇 4
二 18 二六〇 7
二 20 二六〇 8
四 38 二六一 6
四 42 二六一 8
五 49 二六一 14
六 56 二六一 3
六 60 二六一 5
十 95 二六四 3
十二 118 二六五 6
金 12 85 二六五 9
金 12 92 二六五 11
金 12 95 二六五 13

八 80 二六三 6

金序 5 二五九 5
金序 5 二五九 5
金序 7 二五九 6
金序 7 二五九 6

所仰遣候處文字、様云事、
改書古文云。

物念書出様行云。
筆注集、被、分別云々。
筆注集、被、分別云々。
筆注集、被、分別云々。
二字、自無、咎云々。
二字、自無、咎云々。
只任于畫意云々。
只任于畫意云々。
只任于畫意云々。

注..金沢文庫本によると、「畫意」は「書意」とある。
自文字起故云々。
自文字起故云々。
自文字起故云々。
五月廿八日

彼、備五徳。
五雙紙、毎面、造付文字量。
十一月廿五日
四畫

亦
亦本字之上、置同寸方量。

人部
人
以此趣、大様彼、人、可合申、御教達給候。
注..金沢文庫本によると、文末の「候」はない。
我、人、令申後悔歟。

名詮自性之故、依、額、所繁昌有人。
然而貴人色番形、御扇等見、
件、物、等、彼、少、人、調、進、可、被、申、御、教、訓、歟。
喻、自、強、力、一、人、弱、輩、万、人、勝、様、
喻、自、強、力、一、人、弱、輩、万、人、勝、様、

七 66 二六一 10
八 75 二六一 2
八 79 二六一 5
十 100 二六四 6
十 101 二六四 7
十 102 二六四 7

四 29 二六一 1
四 31 二六一 2
四 34 二六一 3
六 57 二六一 4
六 57 二六一 4
六 61 二六一 5
六 61 二六一 5
八 80 二六三 6
八 80 二六三 6

五

注..金沢文庫本によると、「五月六日」とある。

彼、備五徳。
五雙紙、毎面、造付文字量。
十一月廿五日
四畫

亦
亦本字之上、置同寸方量。

人部

人
以此趣、大様彼、人、可合申、御教達給候。
注..金沢文庫本によると、文末の「候」はない。
我、人、令申後悔歟。

名詮自性之故、依、額、所繁昌有人。
然而貴人色番形、御扇等見、
件、物、等、彼、少、人、調、進、可、被、申、御、教、訓、歟。
喻、自、強、力、一、人、弱、輩、万、人、勝、様、
喻、自、強、力、一、人、弱、輩、万、人、勝、様、

七 66 二六一 10
八 75 二六一 2
八 79 二六一 5
十 100 二六四 6
十 101 二六四 7
十 102 二六四 7

四 29 二六一 1
四 31 二六一 2
四 34 二六一 3
六 57 二六一 4
六 57 二六一 4
六 61 二六一 5
六 61 二六一 5
八 80 二六三 6
八 80 二六三 6

『手習字往来』漢字索引

無人氣之間、重而令申候。
皆人、被知食事也。

能書相傳之人之假字、

人部 二畫

今 去月十六日御札今月二日到来。
仍 仍重而言上。

注：金沢文庫本によると、「重而」の「而」はない。

仏 然而且、興隆仏法、可有御存知候。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

人部 三畫

仕 諭、行、如通仕。

々々(通仕) 如三聞、一知、和漢音、

他 諸事免許者、為自他、幸。

付 手習学問之条付、奉問答。

抑付善悪書、文字、何様書、

三筆跡水付無煩吉。

四本、被近付、本字、新差別、疾覚。

五雙紙、每面、造付文字量。

是以為見付。

續吉為習者、付字可好也。

代 因之為後代之少童等、任問非之次第、

彼三様者、自何時代一起哉。

令 御披見類思、可令加直筆給候。

注：日本教科書大系は、「御披見之□、□思、可令加直筆、給候。」とする。

真行草之中、何可令始習候哉。

委細被仰候者、生前之大幸、令存候。

得筆自在之後、可令習真書也。

以此趣、可令申、御教訓、給上候。

十一 109 二六四 13
十二 113 二六五 3
金十二 91 二六五 11

二 13 二六〇 4
七 66 二六二 11

五 45 二六一 11

二 17 二六〇 6
二 17 二六〇 6

十一 107 二六四 12

金序 3 二五九 4

五 46 二六一 12

十 95 二六四 4

十 96 二六四 4

十 97 二六四 4

金十二 89 二六五 10

金十二 89 二六五 10

金序 8 二五九 6

三 22 二六〇 11

金序 12 二五九 7

正 6 二五九 11

正 9 二五九 13

二 15 二六〇 5

二 19 二六〇 7

又文字、以何様、宗、可令書好候。
額、碑銘等之字形、令書寫之時、
恐々、事之由、所奉、令申、問也。

令申押返之条、狹所、可思食事歟。

何勝、可令好習候。

注：金沢文庫本では、「令好」部分が欠損している。

以此趣、大様彼人、可令申、御教達給候。

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

我人、令申後悔歟。

一日御消息思、忘、不令申事、返々遺恨候。

何以字書、可令書候哉。

能々請談計、可令書也。

注：金沢文庫本によると、「也」の後に「云々」とある。

詩哥文等無畫者、時景季、或可令随主好也。

令問給取其条、

注：金沢文庫本によると、「取」は「歎」とある。「所」の誤字か。

令申之間義惜、由、困、定、可思食事、

注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

如此不令申問候、

無其事、令申子細之条、

無人氣之間、重而令申候。

具以承候畢。

以此趣、可令申、御教訓、給上候。

又文字、以何様、宗、可令書好候。

厚薄之字者、以三字為本、

不能。

以此趣、大様彼人、可令申、御教達給候。

三 23 二六〇 12
三 24 二六〇 12
三 26 二六〇 13
五 44 二六一 11
五 48 二六一 13

六 63 二六一 7

七 66 二六一 10

七 67 二六一 11

七 68 二六一 12

八 75 二六一 3

八 77 二六一 4

八 80 二六一 6

八 80 二六一 6

九 87 二六一 12

十一 106 二六一 11

十一 110 二六一 13

二 13 二六一 4

二 19 二六一 7

三 23 二六一 11

六 60 二六一 5

六 62 二六一 7

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

何以字書、可令書候哉。

扇等以同之。

崎、以如針、可書之。

手習初心之時、以車雙帯為第一。

廣、以中大指、取能程也。

愚、習以千字之力、不得書無一字者也。

是以為見付。

案合此二筋、以有文字、可為本也。

四畫

委細被仰候者、生前之大幸令存候。

所仰遣候處文字、様、云事、

一一蒙仰者、

仰遣条々事等、併承了。

注：金沢文庫本によると、「承」の後に「候」とある。

任仰旨粗注進之。

有恩顧、細々可蒙仰候。

右仰遣、假名字、事、

但与依仰事注申。

件、物等、彼少人、調進、可被申御教訓、欺。

任、因之為後代之少童等、任問非之次第、

只任于畫意、云々。

注：金沢文庫本によると、「畫意」は「書意」とある。

任仰旨粗注進之。

人部

五畫

但、當時者似、無要、将来者、尤可有用欺。

但有古賢語。

但信草、随主書事、常、法例也。

七 68 二二二 12

八 77 二二六 3 4

十 91 二二四 1

十 94 二二四 3

十 99 二二四 5

十 102 二二四 7

金 12 89 二二五 10

金 12 92 二二五 11

正 8 二二九 12

四 29 二六一 1

五 49 二六一 14

八 72 二六三 1

十 90 二六四 1

十 110 二六四 14

十二 112 二六五 3

十二 114 二六五 3

十 99 二六四 6

金 序 8 二二五 9 6

八 80 二六三 6

十 90 二六四 1

三 25 二六〇 13

金 序 5 二二五 9 5

八 79 二六三 5

注：金沢文庫本によると、「常」は「當」とある。また、「書」は「之」か。

但与依仰事注申。

抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

何無勝劣書候。

真行草之中、何可令始習候哉。

彼三様者、自何時代一起哉。

如何々々(如何)。

如何々々(如何)。

又文字、以何様、宗、可令書好候。

抑付善惡書、文字、何様書、

何勝、可令好習候。

注：金沢文庫本では、「令好」部分が欠損している。

如何々々(如何)。

如何々々(如何)。

墨置何處、可嫌也。

何以字書、可令書候哉。

何勝候哉。

何為勝、何可為劣哉。

何為勝、何可為劣哉。

又何様續為難書。

非態作文者、其謬多候覽欺。

我朝、高野、大師、御作候之間、

人部

六畫

併、仰遣条々事等、併承了。

注：金沢文庫本によると、「承」の後に「候」とある。

古文、草文、併可随内題也。

例、古文、生様、意形、真様、例書是也。

十二 113 二二六 5 3

正 3 二二九 10

正 4 二二九 11

正 6 二二九 11

三 22 二六〇 11

三 23 二六〇 11

三 23 二六〇 11

三 23 二六〇 11

五 46 二六一 12

五 47 二六一 13

五 49 二六一 13

五 49 二六一 13

六 59 二六一 5

七 68 二六一 12

九 84 二六三 11

九 86 二六三 12

九 87 二六三 12

十 108 二六四 13

金 序 10 二二五 9 7

十二 113 二六五 3

八 72 二六三 1

八 78 二六三 5

四 36 二六一 5

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。
但信草、随主書事、常、法例也。

八七九 二六三 5

依 右依少髡之要用、

金序1 二五九 4

名詮自性之故、依、額鉢所繁昌有人。

八七四 二六三 2

如此不令申問候、依難知、

九八七 二六三 12

誠依少童、愛憐、聊不恐高覽。

十一〇五 二六四 11

但与依仰事注申。

十二一四 二六五 3

人部 七畫

俗 然則雖俗家、能書相傳之人之假字、

金十二 90 二六五 11

信 每事期後信。

七七〇 二六二 13

内信、者外、可信。

八七八 二六三 4

内信、者外、可信。

八七八 二六三 4

但信草、随主書事、常、法例也。

八七九 二六三 5

注：金沢文庫本によると、「常」は「當」とある。また、「書」は「之」か。

信習、者、打帯、竹等、結筆、和筆、

十 90 二六四 1

人部 八畫

非態作文者、其謬多候覽歟。

金序11 二五九 7

御披見類思可令加直筆給候。

金序12 二五九 8

注：日本教科書大系は、「御披見之□□思可令加直筆給候。」とする。

何無勝劣書候。

正 4 二五九 11

若有其器量、者、能書教立、存思給候。

正 6 二五九 11

真行草之中、何可令始習候哉。

正 6 二五九 12

纔抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。

正 7 二五九 12

纔抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。

正 8 二五九 12

委細被仰候者、生前之大幸令存候。

正 9 二五九 13

委細被仰候者、生前之大幸令存候。

正 9 二五九 13

每事期面拜之時候。

正 10 二五九 13

具以承候畢。

二一四 二六〇 4

以此趣可令下申御教訓給候。

二一九 二六〇 7

真行草之趣、委承候畢。

三二二 二六〇 11

又文字、以、何、様、宗、可令書好候。

三二四 二六〇 12

難書候之間、當時者似、無、要、

三二五 二六〇 12

所仰遣候處文字、様、云事、

四二九 二六一 1

可有御高覽候歟。

四四一 二六一 8

然而且、興隆仏法、可有御存知候。

四五五 二六一 11

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

又墨續、若所續、所不續候哉。

五四七 二六一 12

墨又厚薄、磨候。

五四七 二六一 13

何勝、可令好習候。

五四八 二六一 13

注：金沢文庫本では、「令好」部分が欠損している。

彼子細者、文字、不候歟。

五四九 二六一 13

注：金沢文庫本によると、「子細」の後に「者」はない。

以此趣、大様彼、人、可令申御教達給候。

六六三 二六一 7

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

一日御消息思、忘、不令申事、返々遺恨候。

七六七 二六一 11

何以三字書、可令書候哉。

七六八 二六一 12

又弊僧之随思出申候間、

九八三 二六一 10

其趣、拂底難申候也。

九八四 二六一 10

何勝候哉。

九八五 二六一 11

如此不令申問候、依難知、

九八七 二六一 12

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

九八八 二六一 13

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

九八八 二六一 13

至書假字、者、其様候哉否。

一一〇八 二六四 12

無人氣之間、重而令申候。

一一一〇 二六四 13

有恩顧、細々可蒙仰候。

一一一〇 二六四 14

我朝、高野、大師、御作候之間、
委并不面談者、難申盡候者也。

十二 113 二六五 3
金十二 94 二六五 12

注：日本教科書大系は、「井」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

人部 九畫

行者真假躰、草骨目也。

二 16 二六〇 5

至書假字者、其様候哉否。

十一 108 二六四 12

右仰遣假名字事、

十二 112 二六五 3

假字難者、

十二 114 二六五 4

凡男女假字者、

金十二 86 二六五 9

山寺假字者、

金十二 87 二六五 10

能書相傳之人之假字、

金十二 91 二六五 11

只偏少子幼言、奏帝王申事、

十一 106 二六四 11

人部 十畫

備 心事不備謹言。

二 19 二六〇 7

彼 備五徳。

十 94 二六四 3

不備謹言。

十二 117 二六五 5

人部 十一畫

傳 蒼頡之後、鳥王傳之。

四 31 二六一 2

注：日本教科書大系によると、「鳥」は金沢文庫本に「禹」とあるという。

能書相傳之人之假字、

金十二 91 二六五 11

權少僧都祐幸

正 11 二六〇 1

久乃寺別當僧都御坊

二 21 二六〇 9

又弊僧之随思出申候間、

九 83 二六三 10

儿部 四畫

先 抑手習始、先習行書。

二 14 二六〇 4

二消息先長吉。

十 95 二六四 3

儿部 五畫

免 諸事免許者、為自他、幸。

十一 107 二六四 12

『手習字往来』漢字索引

入部 兔 兔筆、藁筆之間、結様有和強。

九 85 二六三 11

入 出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

金序 7 二五九 6

如此事等不申承者、定御没入之後、

七 66 二六二 10

八部

彼三様内、十八形定。

四 35 二六一 4

已上彼此十八形也。

四 40 二六一 7

五月廿八日

五 51 二六一 15

注：金沢文庫本によると、「五月六日」とある。

八月十八日

八 82 二六三 8

八月十八日

八 82 二六三 8

十二月八日

十二 118 二六五 6

八部 二畫

積季六十一老法師之、

金序 2 二五九 4

正月十六日

正 11 二六〇 1

去月十六日御札今月二日到来。

二 13 二六〇 4

二月六日

二 20 二六〇 8

三月廿六日

三 28 二六〇 14

蒼頡始字造時、六十四篇定文形。

四 30 二六一 1

此十二様惣合為六、

四 39 二六一 6

委、蒼頡六十四篇与大師筆注集、

四 40 二六一 7

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十」とある。

六月三日

六 64 二六一 8

彼量上六字故字形易、覚吉。

十 98 二六四 5

尔・也・六・美九字、必上字可續。

十二 115 二六五 4

八部

其 旁雖多其憚、為随愛童情、

金序 4 二五九 4

『手習字往来』漢字索引

非態作文者、其謬多候覽歟。
若有其器量者、能書教立、存思給候。

金序 11 二五九 7

如_ニ其物質_一書_ニ字_一。

正 5 二五九 11

其_ニ厚墨者_一有_ニ行_一終_一。

四 30 二六一 1

抑額字、其所素_ニ有額_一。

六 58 二六二 4

令問給取其条、

八 72 二六三 1

注_ニ金沢文庫本によると、「取」は「歟」とある。「所」の誤字か。

八 80 二六三 6

其趣、拂底難申候也。

九 83 二六三 10

無其事令申子細之条、

十一 105 二六四 11

至書假字者、其様候哉否。

十一 108 二六四 12

無上字者不其限。

十二 116 二六五 4

具

具以承候畢。

二 13 二六〇 4

内

宮内卿權少輔殿

正 12 二六〇 2

宮内卿藤原朝臣行能

二 20 二六〇 8

彼_ニ三様内_一、十八形_ニ定_一。

四 35 二六一 4

所謂書内、

四 35 二六一 4

次鳥書内、古文、生様、意形、

四 37 二六一 5

注_ニ金沢文庫本によると、「鳥」は「禹」とある。

四 38 二六一 6

齡書内、畧點、朽書等是也。

四 38 二六一 6

注_ニ金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

四 43 二六一 9

宮内卿藤原朝臣行能

四 43 二六一 9

注_ニ金沢文庫本によると、「朝」の後に「臣」がない。

四 43 二六一 9

次經書上書、可随内題。

八 78 二六三 4

注_ニ金沢文庫本によると、「上書」の後に「者」とある。

八 78 二六三 4

内信_{者外}可_レ信。

八 78 二六三 4

古文、草文、併可随内題也。

八 78 二六三 5

宮内卿行能

十 104 二六四 9

宮内卿行能

十二 118 二六五 6

凡 一畫

金序 5 二五九 5

凡男女假字者、

正 7 二五九 12

凡 三畫

四 33 二六一 3

出 世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

四 34 二六一 4

纒抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。

四 36 二六一 4

物念書出様_行云々。

四 36 二六一 4

乍立_念々書出様名_ニ草書_一也。

四 36 二六一 4

注_ニ金沢文庫本によると、「乍立」の「立」はない。また、「也」部分が欠損している。

所謂書内、科斗、雲出、大篆、

四 36 二六一 4

何様書、文形、出来。

四 36 二六一 4

彼少童随問状、又弊僧之随思出、申候間、

五 46 二六一 12

刀部 二畫

九 83 二六三 10

筆注集_被分別_ニ云々_一。

六 57 二六一 4

又於一切事、有難有咎。

五 48 二六一 13

注_ニ金沢文庫本によると、「一切」の後に「之」とある。

五 48 二六一 13

刀部 五畫

八 73 二六三 1

初額 諸寺諸社之瞻古額之跡、

八 73 二六三 1

注_ニ金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

八 73 二六三 1

手習初心之時、以車雙帛為第一。

十 93 二六四 3

久乃寺別當僧都御坊

二 21 二六〇 9

垂露、懸針_定給_上不可有別風情歟。

六 55 二六一 2

注_ニ金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

六 55 二六一 2

筆注集_被分別_ニ云々_一。

六 57 二六一 4

四本_被近付、本字_新差別_疾覺。

十 96 二六四 4

刀部 六畫

到 去月十六日御札今月二日到来。 二 13 二六〇 4

刻 纒抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。 正 7 二五九 12

刀部 七畫

則 然則雖俗家、能書相傳之人之假字、 金 12 90 二六五 11

剋 山寺假字者、剋々本字、 金 12 87 二六五 10

剋 山寺假字者、剋々本字、 金 12 87 二六五 10

前 委細被仰候者、生前之大幸令存候。 正 9 二五九 13

刀部 十三畫

劇 奏軍連々谷劇之時、 四 33 二六一 3

力部

力 喻、自強力一人、弱輩万人勝様、 十 101 二六四 7

力 一字、能力、千字、不被書。 十 102 二六四 7

力 愚習以千字之力、不得書無一字者也。 十 103 二六四 8

力部 三畫

加 御披見類思可令加直筆給候。 金 序 12 二五九 7

力部 四畫

劣 何無勝劣書候。 正 4 二五九 11

劣 何為勝、何可為劣哉。 九 87 二六三 12

力部 十畫

勝 何無勝劣書候。 正 4 二五九 11

勝 行^{タニ}勝^{メレハ} 易^ハ真^ハ草^ノ一^ノ者^也。 二 15 二六〇 5

勝 何勝可令好習候。 五 48 二六一 13

勝 何勝候哉。 九 85 二六三 11

勝 何為勝、何可為劣哉。 九 87 二六三 12

勝 都、自一字能習、千字愚習申也。 十 101 二六四 7

勝 注：金沢文庫本では、「令好」部分が欠損している。

勝 注：日本教科書大系は、「御披見之□、□思可令加直筆給候。」とする。

勝 注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

勝 注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

勝 注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

勝 注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

力部 十一畫

喻 喻、自強力一人、弱輩万人勝様、 十 102 二六四 7

力部 十畫

積季六十一老法師之、 金 序 2 二五九 4

正月十六日 正 11 二六〇 1

去月十六日御札今月二日到来。 二 13 二六〇 4

蒼頡始字造時、六十四篇定文形。 四 30 二六一 1

彼三様内、十八形定。 四 35 二六一 4

此十二様惣合為六、 四 38 二六一 6

已上彼此十八形也。 四 40 二六一 7

委蒼頡六十四篇与大師筆注集、 四 40 二六一 7

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十一」とある。

八月十八日 八 82 二六三 8

十月廿四日 十 104 二六四 9

十一月廿五日 十一 111 二六五 1

十二月八日 十二 118 二六五 6

十二月三日 金 12 95 二六五 13

十部 一畫

都 都、自一字能習、千字愚習申也。 十 101 二六四 6

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

一字、能力、千字、不被書。 十 102 二六四 7

愚習以千字之力、不得書無一字者也。 十 103 二六四 7

口部 十畫

宮内卿權少輔殿 正 12 二六〇 2

宮内卿藤原朝臣行能 二 20 二六〇 8

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

宮内卿藤原朝臣行能

注：金沢文庫本によると、「朝」の後に「臣」はない。

四三 二六一 9

宮内卿行能

十 一〇四 二六四 9

宮内卿行能

十二 一八 二六五 6

厂部 七畫

墨又厚薄磨候。

墨厚薄事、有得筆、

薄磨不得厚可磨。

厚墨一字、薄墨一字不置也。

其厚墨者有二行終。

厚薄之字者、以三字為本、

注：金沢文庫本によると、「厚薄之」の「之」はない。また、「者以」は確認不能。

不能。

厂部 八畫

宮内卿藤原朝臣行能

宮内卿藤原朝臣行能

注：金沢文庫本によると、「朝」の後に「臣」はない。

藤原朝臣行能

注：金沢文庫本によると、「宮内卿藤原朝臣行能」とある。

藤原行能

注：金沢文庫本によると、「宮内」とある。

厶部 三畫

去月十六日御札今月二日到来。

又部

々(草)又不通真故也。

又文字以何様、宗可令書好候。

又墨續、若所續、所不續候哉。

墨又厚薄磨候。

又於一切事、有難有咎。

注：金沢文庫本によると、「一切」の後に「之」とある。

五八 二六一 13

又色形者、有畫々意。

彼少童隨問狀、又弊僧之隨思出、

又筆、○筆、卷上、筒筆、唐筆、

注：○は、「私」か。「和」の可能性があるか。

又何様續為難書。

又部 二畫

右三箇條子細、予承定、及意程争惜之、

又部 六畫

私取心、名曰手習覚往来。

抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

令問給取其条、

注：金沢文庫本によると、「取」は「欺」とある。「所」の誤字か。

廣以中大指取能程也。

口部 二畫

但有古賢語。

改書古文云。

古文、生様、意形、真様、例書是也。

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

初額、諸寺諸社之瞻古額之躰、

注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

古文、草文、併可隨内題也。

只

一二蒙仰者、只雲霧、如見青天。

注：金沢文庫本によると、「只雲霧」は「只開雲霧」とある。

只任于畫意云々。

注：金沢文庫本によると、「畫意」は「書意」とある。

只偏少子幼言、奏帝王申事、

八七 二六三 3

九八 二六三 10

九八 二六三 11

十一 一〇八 二六四 13

六五 二六二 1

金序 9 二五九 7

正 3 二五九 10

八〇 二六三 6

十 99 二六四 6

金序 5 二五九 5

四三 二六一 2

四三 二六一 5

八二 二六三 8

六六 二六一 8

二〇 二六一 8

四三 二六一 9

二一三 〇 4

二一三 〇 6

二二 二六一 11

二二 二六一 12

只有此事歟。

可 御披見類思可令加直筆給候。

注：日本教科書大系は、「御披見之□、□思可令加直筆給候。」とする。

真行草之中、何可令始習候哉。

得筆自在之後、可令習真書也。

以此趣可令申御教訓給候。

又文字、以何様、宗可令書好候。

将来者、尤可有用歟。

可有御高覽候歟。

令申押返之条、狹所可思食事歟。

然而且、興隆仏法、可有御存知候。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

何勝可令好習候。

注：金沢文庫本では、「令好」部分が欠損している。

可秘之哉。

注：金沢文庫本によると、「可令秘之候哉」とある。

垂露、懸針、定給上、不可有別風情歟。

注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

薄磨不得厚、可磨。

薄、可磨、筆注集、被分別云々。

墨置何處、可嫌也。

以此趣、大様彼人、可令申御教達給候。

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

何以字書、可令書候哉。

栄福者、不可違本様。

初額、諸寺諸社之瞻古額之躰、可章。

注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

「可章」部分は、金沢文庫本によると、「可草文」か。日本教科書大系で『手習学往来』漢字索引

十一 107 二六四 12

金序 12 二五九 7

正 6 二五九 11

二 15 二六〇 5

二 19 二六〇 7

三 23 二六〇 12

三 26 二六〇 13

四 41 二六一 7

五 44 二六一 11

五 45 二六一 11

五 48 二六一 13

六 52 二六一 1

六 54 二六一 2

六 56 二六一 3

六 57 二六一 3

六 60 二六一 5

六 63 二六一 7

七 68 二六一 12

八 73 二六一 1

八 74 二六三 2

は、「立筆」とする。

能々請談計、可令書也。

注：金沢文庫本によると、「也」の後に「云々」とある。

詩哥文等無畫者、時景季、或可令随主好也。

次經書上書、可随内題。

注：金沢文庫本によると、「上書」の後に「者」とある。

内信、者外、可信。

古文、草文、併可随内題也。

令申之間義惜、由困、定可思食事、

注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

何為勝、何可為劣、哉。

崎、以如針、可書之。

不打紙、可書之。

草書、梵字等、砂、可習也。

件物等、彼少人、調進、可被申御教訓、歟。

可有御心得也。

奏帝王申事、可為等同者、歟。

有恩顧、細々可蒙仰候。

天・留・可・郎・尔・也・六・美九字、

尔・也・六・美九字、必上字、可續。

(前欠) 山不同可書也。

續吉為習者、付字可好也。

案合此二筋、以有文字、可為本也。

右依少髻之要用、

右三箇條子細、予承定、及、意程争惜之、

同左短右長。

右仰遣、假名字、事、

八 75 二六三 3

八 77 二六三 4

八 78 二六三 4

八 78 二六三 4

八 78 二六三 4

八 78 二六三 5

八 81 二六三 6

九 87 二六三 12

十 91 二六四 1

十 92 二六四 2

十 92 二六四 2

十 92 二六四 2

十 100 二六四 6

十 103 二六四 8

十一 106 二六四 12

十一 110 二六四 14

十一 114 二六五 4

十一 115 二六五 4

金 112 85 二六五 9

金 112 90 二六五 10

金 112 92 二六五 11

金序 1 二五九 4

六 52 二六一 1

六 54 二六一 2

十二 112 二六五 3

合 此十二様、惣合為一六、

案合此二筋、以有文字、可為本也。

吉 一文字形、疾吉。

二消息先長吉。

三筆跡水付無煩吉。

彼量、上六字故字形易、覺吉。

續吉為習者、付字可好也。

同 同左短右長。

扇等以同之。

亦本字之上、置同寸方量。

奏帝王申事、可為等同者、歟。

(前欠) 山不同可書也。

名 私取心、名曰手習覺往来。

故此品名、曰畫書。

乍立念々書出様名、草書也。

注：金沢文庫本によると、「乍立」の「立」はない。また、「也」部分が欠損している。

名詮自性之故、依額鉢所繁昌有人。

右仰遣、假名字、事、

口部 四畫

至書假字者、其様候哉否。

口部 五畫

出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

和 命 命 命

命 命 命

命 命 命

命 命 命

命 命 命

命 命 命

命 命 命

命 命 命

命 命 命

命 命 命

命 命 命

咎 又於一切事、有難有咎。

注：金沢文庫本によると、「一切」の後に「之」とある。

口部 六畫

故、此品名、曰畫書。

毛品、有太細。

二行並書籍、自此品起。

哉 真行草之中、何可令始習候哉。

彼三様者、自何時代一起哉。

又墨續、若所續、所不續候哉。

可秘之哉。

注：金沢文庫本によると、「可令秘之候哉」とある。

何以二字書、可令書候哉。

何勝候哉。

何為勝、何可為劣哉。

至書假字者、其様候哉否。

口部 七畫

哥 詩哥文等無畫者、時景季、或可令隨主好也。

唐 唐筆、竹筆、兔筆、蕪筆之間、結様有和強。

口部 八畫

問 手習學問之条付、奉問答。

手習學問之条付、奉問答。

任問非之次第、是書連、

恐々、事之由、所奉令申問也。

令問給取其条、

注：金沢文庫本によると、「取」は「歟」とある。「所」の誤字か。

彼少童隨問狀、

如此不令申問候、依難知、

如此不令申問候、依難知、

如此不令申問候、依難知、

如此不令申問候、依難知、

如此不令申問候、依難知、

如此不令申問候、依難知、

如此不令申問候、依難知、

口部 九畫

抑付善惡書ニ文字、何様書、

善 諭 行如通仕。

諭 筆勢与書、態不舉慎、憚故也。

諭 自強力一人、弱輩万人勝様、

口部 十二畫

器 若有其器量者、能書教立、存思給候。

口部 二畫

蒼頡始字造時、六十四篇定ニ文形。

委 蒼頡六十四篇与大師筆注集、

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十一」とある。

四月朔日

四本 被近付、本字、新差別、疾覺。

十月廿四日

口部 三畫

困 因之為後代之少童等、任問非之次第、

口部 四畫

令申之間義惜 由 困定可思食事、

注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

土部 三畫

在 得筆自在之後、可令習真書也。

土部 四畫

坊 抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

久乃寺別當僧都御坊

土部 七畫

垂 垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、厠爪是也。

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。

垂露懸針 定給上

注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

土部 十二畫

又墨續、若所續、所不續候哉。

墨 又厚薄磨候。

墨 厚薄事、有得筆、

次墨續事者、

厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。

厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。

其、厚墨者有行終、

薄墨者有行上。

墨置何處可嫌也。

土部 十三畫

徒 書穢、且者壞、由緒不知謗。

注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。「壞」は「懷」の誤写か。

夕部 二畫

外 抑、額、色、帛形、扇、經書、外題等、

内信 者外可信

夕部 三畫

旁雖多其憚、為隨愛童情、

非態作文者、其謬多候覽歎。

大部

委細被仰候者、生前之大幸令存候。

齡者大臣之間

大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。

委 蒼頡六十四篇与大師筆注集、

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十一」とある。

六 54 二六二 2

五 46 二六一 12

五 47 二六一 12

六 55 二六一 2

六 57 二六一 4

六 58 二六一 4

六 58 二六一 4

六 59 二六一 4

六 59 二六一 5

六 59 二六一 5

七 69 二六一 12

七 68 二六一 12

八 78 二六一 4

金 序 3 二五九 4

金 序 11 二五九 7

正 9 二五九 13

四 33 二六一 3

四 36 二六一 5

四 41 二六一 7

四 39 二六一 6

『手習字往来』漢字索引

十一とある。

以此趣、大様彼人、可令申、御教達給候。

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

廣、以中大指、取能程也。

我朝、高野、大師、御作候之間、

大部 一畫

老恥天下響云々。

注：日本教科書大系によると、「天下」は「關山か」ともある。

如、見、青天。

不・天・留・可・郎・尔・也・六。

毛品、有太細。

大部 二畫

故失字跡

大部 五畫

手習字問之条付、奉問答。

恐々、事之由、所奉、令申問一也。

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

大部 六畫

奏、奏帝王申事、可為等同者、歟。

女部

凡男女假字者、

女部 三畫

又文字、以何様、宗、可令書好候。

何勝、可令好習候。

注：金沢文庫本では、「令好」部分が欠損している。

詩哥文等無畫者、時景季、或可令随主好也。

凡男女假字者、好續節下、故失字跡。

注：日本教科書大系は、「續」を「續」とする。

如

續吉為習者、付字可好也。

祐幸素、如被知食、

喻、行、如通仕。

々々(通仕)、如、聞、知、和漢音、

如何々々(如何)。

如何々々(如何)。

如其物質、書字。

如何々々。

如何々々。

是、如、次、當、真行草一也。

如、見、青天。

如此事等不申承者、定御没入之後、

如此不令申問候、

崎、以如針、可書之。

彼手曰如此。

女部 五畫

真行草之中、何可令始習候哉。

抑手習始、先習行書。

蒼頡始、字造時、六十四篇定、文形。

委細被仰候者、生前之大幸令存候。

真、行草之趣、委承候畢。

委、蒼頡六十四篇与大師、筆注集、

委并不面談者、難申盡候者也。

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十一」とある。

注：日本教科書大系は、「并」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

金十二 90 二六五 10

正 7 二五九 12

二 17 二六〇 6

二 18 二六〇 6

三 23 二六〇 11

三 23 二六〇 11

四 30 二六一 1

五 49 二六一 13

五 49 二六一 13

六 61 二六一 14

五 50 二六一 14

六 61 二六一 6

七 65 二六一 10

九 87 二六三 12

十 91 二六四 1

十一 109 二六四 13

正 6 二五九 11

二 14 二六〇 4

四 29 二六一 1

正 8 二五九 12

三 22 二六〇 11

四 40 二六一 7

金十二 93 二六五 12

女部 十畫

嫌 墨置何處可嫌也。

六〇 二六二五

子部 子

令書寫之時、不知子細、彼子細者、文字不候歟。

三二五 二六〇一〇
五四九 二六一一三

注：金沢文庫本によると、「子細」の後に「者」はない。

右三箇條子細、予承定、及意程争惜之、無其事令申子細之条、

六五二 二六二一
一一〇六 二六四一一
一一〇六 二六四一一

只偏少子幼言、奏帝王申事、

十一〇六 二六四一一

子部 三畫

出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

金序六 二五九五

書字事無窮。

正四 二五九一〇

不知字跡之趣候。

正八 二五九一〇

又文字、以何様、宗、可令書好候。

三二三 二六〇一一

額、碑銘等之字形、令書寫之時、

三二四 二六〇一二

所仰遣候處文字、様云事、

四二九 二六一一

蒼頡始字造時、六十四篇定文形。

四二九 二六一一

如其物質、書二字。

四三〇 二六一一

抑付善惡書、文字、何様書、

四四六 二六一二

彼子細者、文字、不候歟。

五四九 二六一一三

注：金沢文庫本によると、「子細」の後に「者」はない。

厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。

六五八 二六一四

厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。

六五八 二六一四

厚薄之字者、以三字為本、

六六〇 二六一五

厚薄之字者、以三字為本、

六六〇 二六一五

注：金沢文庫本によると、「厚薄之」の「之」はない。また、「者以」は確認不能。

二字、自無咎云々。

六六〇 二六一五

『手習字往來』漢字索引

次字難事者

六六一 二六二六

何以字書、可令書候哉。

七六八 二六二一二

抑額字、其所素、有額。

八七二 二六三一一

草書、梵字等、砂、可習也。

九二 二六四二

一文字形、疾吉。

九四 二六四三

四本、被近付、本字、新差別、疾覺。

九六 二六四四

五雙紙、每面、造付文字量。

九七 二六四四

亦本字之上、置同寸方量。

九七 二六四四

搜字、橫豎之趣、

九八 二六四五

彼量、上六字、故字形易、覺吉。

九八 二六四五

彼量、上六字、故字形易、覺吉。

九八 二六四五

都、自一字能習、千字愚習申也。

一〇〇 二六四六

都、自一字能習、千字愚習申也。

一〇一 二六四六

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

一字、能力、千字、不被書。

一〇二 二六四七

一字、能力、千字、不被書。

一〇二 二六四七

愚習以千字之力、不得書無一字者也。

一〇三 二六四七

愚習以千字之力、不得書無一字者也。

一〇三 二六四七

至書假字者、其様候哉否。

一〇八 二六四八

右仰遣假名字事、

一一〇 二六四九

假字難者、

一一二 二六五〇

爾・也・六・美九字、必上字、可續。

一一四 二六五〇

爾・也・六・美九字、必上字、可續。

一一四 二六五〇

無上字者不其限。

一一五 二六五一

然乍置上字、上、不續。

一一五 二六五一

上字、自連後者下置、不難。

一一六 二六五二

凡男女假字者、

一一七 二六五三

故失字跡。

一一八 二六五四

『手習字往来』漢字索引

山寺假字者、剋々本字、
山寺假字者、剋々本字、
有文字形。

續吉為習者、付字可好也。
能書相傳之人之假字、
有字無續也。

注：日本教科書大系は、「續」を「續」とする。
案合此二筋、以有文字、可為本也。
自文字起故云々。

若有其器量者、能書教立、存思給候。
委細被仰候者、生前之大幸令存候。
然而且興隆仏法、可有御存知候。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。
貴殿、御生存之時、

子部

五畫

季 詩哥文等無畫者、時景季、或可令随主好也。
学 手習学問之条付、奉問答。

宀部

五畫

宗 又文字、以何様、宗、可合書好候。
定 行書、定而通真草。

蒼頡始字造時、六十四篇定文形。
彼三様内、十八形定。

右三箇條子細、予承定、及意程争惜之、
垂露、懸針、定給上、不可有別風情歟。
注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

如此事等不申承者、定御没入之後、
令申之間義惜、由困定可思食事、

金十二 87 二六五 10

金十二 88 二六五 10

金十二 88 二六五 10

金十二 89 二六五 10

金十二 91 二六五 11

金十二 91 二六五 11

金十二 92 二六五 11

金十二 93 二六五 12

正 5 二五九 11

正 9 二五九 13

五 45 二六一 11

七 65 二六一 10

八 76 二六三 3

金序 2 二五九 4

二 18 二六〇 6

三 23 二六〇 12

四 30 二六一 1

四 35 二六一 4

六 52 二六一 1

六 54 二六一 2

七 65 二六一 10

八 81 二六三 6

宀部

七畫

宮内卿權少輔殿
宮内卿藤原朝臣行能
宮内卿藤原朝臣行能

注：金沢文庫本によると、「朝」の後に「臣」はない。

宮内卿行能

宮内卿行能

宮内

家 然則雖俗家、能書相傳之人之假字、

八畫

宿 抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

寄 抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

十一畫

實 實此語得據者也。

十二畫

審 不審々々。

不審々々。

寫 額碑銘等之字形、令書寫之時、

寸部

亦本字之上置同寸方量。

三畫

寺 久乃寺別當僧都御坊

初額 諸寺諸社之瞻古額之鉢、

注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

山寺假字者、剋々本字、

七畫

將 當時者似無要、將來者、尤可用歟。

正 12 二六〇 2

二 20 二六〇 8

四 43 二六一 9

十 104 二六四 9

十二 118 二六五 6

金十二 95 二六五 13

金十二 90 二六五 11

正 3 二五九 10

正 3 二五九 10

正 3 二五九 10

金序 7 二五九 6

正 2 二五九 10

正 2 二五九 10

三 24 二六〇 12

十 97 二六四 5

二 21 二六〇 9

八 73 二六三 1

金十二 87 二六五 10

三 25 二六〇 13

小部

抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。

小部

右依少髡之要用、

因之為後代之少童等、任問非之次第、

權少僧都祐幸

宮内卿權少輔殿

彼少童隨問狀、

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

件、物等、彼少人調進、可被申御教訓、歟。

誠依少童、愛憐、聊不恐高覽。

只偏少子幼言、奏帝王申事、

二畫

尔 天・留・可・郎・尔・也・六・美九字、

小部 五畫

尚 抑文形事者、和尚既、文間普白黑白等、

尤部 一畫

尤 當時者似、無要、将来者、尤可有用歟。

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

山部

山 (前欠) 山不同可書也。

山寺假字者、剋々本字、

山部 八畫

崎 崎以如針、可書之。

工部 二畫

左 同左短右長。

巨部

不知巨細

工部 七畫

差 四本被近付、本字、新差別、疾寛。

己部 己 已上彼此十八形也。

己部 六畫

卷 又筆、○筆、卷上、簡筆、唐筆、

巾部 四畫

抑、額、色、帛形、扇、經書、外題等、

又色帛形者、有畫々意。

然而貴人色帛形、御扇等見、

抑手習料帛、々々(帛) 木竹、砂、

抑手習料帛、々々(帛) 木竹、砂、

信習者、打帛、竹等、結筆、和筆、

手習初心之時、以車雙帛為第一。

↓紙(糸部四畫)

巾部 六畫

帝 奏帝王申事、可為等同者、歟。

巾部 七畫

積季六十老法師之、

委、蒼頡六十四篇与大師、筆注集、

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六

十」とある。

我朝、高野、大師、御作候之間、

巾部 八畫

但信草、随主書事、常、法例也。

常

注：金沢文庫本によると、「常」は「當」とある。また、「書」は「之」か。

『手習字往来』漢字索引

干部 三畫

委并不面談者、難申盡候者也。

金十二 94 二二六五 12

干部 五畫

注：日本教科書大系は、「并」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

祐幸素 如被知食、

正 6 二二五九 12

委細被仰候者、生前之大幸令存候。

正 9 二二五九 13

祐幸

正 11 二二六〇 1

祐幸

三 28 二二六〇 14

祐幸

五 51 二二六一 15

祐幸

七 71 二二六二 14

祐幸

九 89 二二六三 14

注：金沢文庫本によると、「權少僧都祐幸」とある。

十一 107 二二六四 12

諸事免許者、為自他、幸。

十一 111 二二六五 1

祐幸

十一 106 二二六四 11

幺部 二畫

只偏少子幼言、奏帝王申事、

九 84 二二六三 10

其趣、拂底難申候也。

九 87 二二六三 12

六畫

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

九 87 二二六三 12

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

九 87 二二六三 12

七畫

抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

正 4 二二五九 10

十二畫

廣 廣。以中大指、取能程也。

十 99 二二六四 5

一畫

三 28 二二六〇 14

三月廿六日

五月廿八日

注：金沢文庫本によると、「五月六日」とある。

九月廿七日

五 51 二二六一 15

十月廿四日

九 89 二二六三 14

十一月廿五日

十 104 二二六四 9

十二畫

抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

十一 111 二二六五 1

衰弊者也。

正 3 二二五九 10

又弊僧之隨思出申候間、

八 75 二二六三 2

弓部

於軍陣脇挿弓箭、

九 83 二二六三 10

弓部

損している。

四 34 二二六一 4

弓部

注：金沢文庫本によると、「脇」は「腋」とある。また、「挿弓箭」部分が欠

七畫

唐筆、竹筆、兔筆、麁筆之間、結様有和強。

十 101 二二六四 7

八畫

草習、結強毛和筆。

九 86 二二六三 11

強

草習、結強毛和筆。

十 91 二二六四 1

形

額、碑銘等之字、形、令書寫之時、

十 101 二二六四 7

四畫

蒼頡始字造時、六十四篇定文形。

三 24 二二六〇 12

彼三様内、十八形定。

四 30 二二六一 1

古文、生様、意形、真様、例書是也。

四 35 二二六一 4

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

四 37 二二六一 5

已上彼此十八形也。

四 40 二二六一 7

何様書、文形出来。

五 46 二二六一 12

抑文形事者、

六 53 二二六一 1

抑、額、色、帛形、扇、經書、外題等、

又色帛形者、有畫々意。

然而貴人色帛形、御扇等見、

一文字形、疾吉。

彼量、上六字故字形易、覺吉。

有文字形。

イ部

五畫

彼三様者、自何時代起哉。

彼三様、内、十八形定。

已上彼此十八形也。

彼子細者、文字、不候歟。

注：金沢文庫本によると、「子細」の後に「者」はない。

以此趣、大様彼人、可令申御教達給候。

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

彼少童随問状、

彼備五徳。

彼量、上六字故字形易、覺吉。

件物等、彼少人調進、可被申御教訓、歟。

彼手曰如此。

往 私取心、名曰手習覺往来。

イ部

六畫

後 因之為後代之少童等、任問非之次第、

得筆自在之後、可令習真書也。

蒼頡之後、鳥王傳之。

注：日本教科書大系によると、「鳥」は金沢文庫本に「禹」とあるという。

行書者鳥王之後、

如此事等不申承者、定御没入、之後、

我人令申後悔歟。

『手習学往来』漢字索引

七 67	二六二 11
八 76	二六三 3
八 80	二六三 5
十 94	二六四 3
十 99	二六四 5
金 128	二六五 10
三 22	二六〇 11
四 35	二六一 4
四 40	二六一 7
五 48	二六一 13
六 63	二六一 7
九 83	二六三 10
十 94	二六四 3
十 98	二六四 5
十 100	二六四 6
十一 109	二六四 13
金 10	二五九 7
金 序 8	二五九 6
二 15	二六〇 5
四 31	二六一 2
四 32	二六一 3
七 66	二六一 10
七 66	二六一 10

每事期後信。

上字、自連後者下置、不難。

イ部

七畫

徒 書穢、且者壞、由緒不知謗。

注：金沢文庫本によると、「壞」は「壞」とある。

イ部

八畫

得 實此語得據者也。

得筆自在之後、可令習真書也。

墨厚、薄事、有得筆、

薄磨不得厚、可磨。

此二様、返為、非能書、磨不得。

注：金沢文庫本によると、「磨不得」は「厚磨得」とある。

且為招災得科計、歟。

注：金沢文庫本によると、「歟」は「也」とある。

愚習以千字之力、不得書無一字者也。

可有御心得也。

御 御披見類思可令加直筆給候。

注：日本教科書大系は、「御披見之口、口思、可令加直筆給候。」とする。

去月十六日御札今月二日到来。

以此趣、可令申御教訓給上候。

久乃寺別當僧都御坊

可有御高覽候歟。

然而且、興隆佛法、可有御存知候。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

以此趣、大様彼人、可令申御教達給候。

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

貴殿、御生存之時、

注：金沢文庫本によると、「貴殿御生存」は「貴殿之御存」とある。

七 70	二六二 13
十二 117	二六五 5
七 69	二六二 12
金 序 7	二五九 6
二 14	二六〇 4
六 55	二六二 3
六 56	二六二 3
六 57	二六二 3
七 69	二六二 13
十 103	二六四 8
十 103	二六四 8
金 序 11	二五九 7
二 13	二六〇 4
二 19	二六〇 7
二 21	二六〇 9
四 41	二六一 7
五 45	二六一 11
六 63	二六一 7
七 65	二六一 10

如此事等不申承者、定御没入^{ハカ}之後、

七日 二六二一〇

一日御消息思^ヒ忘^レ不令申事、返々遺恨候。

七日 二六二一〇

然而貴人色形、御扇等見^レ、

八日 二六三〇五

件物等、彼少人調進、可被申御教訓^ヲ歟。

十日 二六四〇六

可有御心得也。

十日 二六四〇八

我朝、高野、大師、御作候之間、

十二日 二六五〇三

才部 十一畫

彼^ニ備^フ五德^ヲ。

十日 二六四〇三

心部

私取心、名曰手習覚往来。

金序 9 二五九〇七

心事不備謹言。

二日 二六〇〇七

手習初心之時、以車雙帛為第一。

十日 二六四〇三

可有御心得也。

十日 二六四〇八

心部 一畫

必^ル也[・]六[・]美^九字、必上^ノ字^ヲ可續。

十二日 二六五〇四

心部 二畫

△^ハ忛^ハ次字難^ノ事^者、忛^ハ短^ノ、曲^ノ、

六日 二六二〇六

謂^ハ真^ハ忛^ハ難^ノ、行^ハ短^ノ難^ノ、

六日 二六二〇六

心部 三畫

忘^レ一日御消息思^ヒ忘^レ不令申事、返々遺恨候。

七日 二六二〇一

心部 四畫

秦軍連々忛^レ劇之時、

四日 二六一〇三

能書^ニ物忛^ニ書出様^ヲ行^ト云^フ。

四日 二六一〇三

乍立忛^々書出様名^ニ草書^一也。

四日 二六一〇四

乍立忛^々書出様名^ニ草書^一也。

四日 二六一〇四

注：金沢文庫本によると、「乍立」の「立」は「立」ではない。また、「也」部分が欠損している。

心部 五畫

御披見類思可令加直筆給候。

金序 12 二五九〇七

注：日本教科書大系は、「御披見之□□思^ヒ可^レ令^レ加^レ直^レ筆^ニ給^レ候^トとする。

若有其器量^者、能書教立、存思給候。

正 5 二五九一〇

令申押返之条、狹^ク所可思食事歟。

五日 二六一〇一

一日御消息思^ヒ忘^レ不令申事、返々遺恨候。

七日 二六一〇一

令申之間義借^由困^ニ定可思食事、

八日 二六一〇三

又弊僧之随思出申候間、

九日 二六一〇三

名詮自性之故、依^レ額^ニ所繁昌有人。

八日 二六一〇二

心部 六畫

恐^々謹言。

金序 12 二五九〇八

恐^々謹言。

金序 12 二五九〇八

恐^々謹言。

金序 12 二五九〇八

注：金沢文庫本によると、「恐々」以下はない。日本教科書大系による。

恐^々、事^之由、所^五奉^四令^三申^二問^一也。

三日 二六〇〇三

依難知、乍恐、度々奉驚高聽之条、

九日 二六三〇二

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

九日 二六三〇三

恐^々謹言。

九日 二六三〇三

恐^々謹言。

九日 二六三〇三

誠依少童、愛憐、聊不恐高覽。

十一日 二六四〇一

恐言

金序 12 二六五〇二

老恥天下響云々。

金序 4 二五九〇五

注：日本教科書大系によると、「天下」は「關山か」ともある。

恨^レ一日御消息思^ヒ忘^レ不令申事、返々遺恨候。

七日 二六一〇一

恩^レ有恩顧、細々可蒙仰候。

十一日 二六四〇三

息^レ一日御消息思^ヒ忘^レ不令申事、返々遺恨候。

七日 二六一〇一

二消息先長吉。

十日 二六四〇三

悔^レ我人令申後悔歟。

七日 二六一〇一

悔^レ我人令申後悔歟。

七日 二六一〇一

惡 抑付善惡書ニ文字、何様書、
心部 八畫 五46 二六一12

情 旁雖多其憚、為隨愛童情、
垂露、懸針定給上不可有別風情歟。
注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。
金序4 二五九5
六55 二六二2

惜 右三箇條子細、予承定、及意程争惜之、
令申之間義惜由困定可思食事、
注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。
六52 二六二1
八81 二六三6

忽 此十二様惣合為六、
心部 九畫 四38 二六一6

意 古文、生様、意形、真様、例書是也。
注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。
四37 二六一5

右三箇條子細、予承定、及意程争惜之、
又色形者、有畫々意。
只任于畫意ニ云々。
注：金沢文庫本によると、「畫意」は「書意」とある。
六52 二六一1
八76 二六三3
八80 二六三6

愚 都 自一字能習、千字愚習申也。
注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。
八81 二六三7
十101 二六四6

愛 旁雖多其憚、為隨愛童情、
誠依少童愛憐、聊不恐高覽。
十 102 二六四7
金序4 二五九5
十一105 二六四11

心部 十畫 十 93 二六四2

慎 喻筆勢与書、態不舉慎、憚故也。
非態作文者、其謬多候覽歟。
十 93 二六四2

憐 誠依少童愛憐、聊不恐高覽。
十二畫 十 93 二六四2
十一105 二六四11

憚 旁雖多其憚、為隨愛童情、
喻筆勢与書、態不舉慎、憚故也。
心部 十三畫 金序4 二五九4
十 93 二六四2

懷 徒書穢、且者壞由緒不知謗。
注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。「壞」は誤写か。
心部 十六畫 七69 二六二12

懸 謂懸針、垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、
注：金沢文庫本では、「懸針」部分が欠損している。
心部 十六畫 四39 二六一6

垂露、懸針定給上不可有別風情歟。
注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。
六54 二六一2

成 若成能書、
我人令申後悔歟。
心部 三畫 三24 二六〇12
七66 二六一10

我朝、高野大師御作候之間、
或 詩哥文等無畫者、時景季、或可令隨主好也。
心部 四畫 十二112 二六五3
八77 二六三4

所 恐々、事之由、所奉令申問也。
所仰遣候處文字様ニ云事、
心部 四畫 三26 二六〇13
四29 二六一1
四35 二六一4
五44 二六一11
五47 二六一12
五47 二六一12

令申押返之条、狹所可思食事歟。
又墨續、若所續、所不續候哉。
又墨續、若所續、所不續候哉。
抑額字、其所素有額。
名詮自性之故、依額所繁昌有人。
心部 六畫 八74 二六三2
八72 二六三1
八72 二六三1

斤部 六畫 八74 二六三2

扇 抑、額、色、帚形、扇、經書、外題等、
扇等以同之。
心部 六畫 七68 二六一11
八77 二六三4

心部 六畫 八77 二六三4

『手習字往来』漢字索引

然而貴人色帛形、御扇等見、

手部

手習字問之条付、奉問答。
私取心、名曰手習覚往来。

抑手習始、先習行書。

抑手習料帛、

手習初心之時、以車雙帛為第一。

彼手曰如此。

手部

二畫

信習者、打帛、竹等、結筆、和筆、
不打紙、可書之。

手部

四畫

良久不申承、朦朧甚深。
具以承候畢。

真行草之趣、委承候畢。

右三箇條子細、予承定、及、意、程争惜之、
如此事等不申承者、定御没入、之後、
仰遣条々事等、併承了。

注・金沢文庫本によると、「承」の後に「候」とある。
注・金沢文庫本によると、「承」の後に「候」とある。

抄

纒抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。

抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

抑手習始、先習行書。

抑付善惡書、文字、何様書、
抑文形事者、

抑、額、色、帛形、扇、經書、外題等、
抑額字、其所素、有額。

抑手習料帛、

手部

五畫

八 80 二六三 5

金序 2 二五九 4

金序 10 二五九 7

二 14 二六〇 4

九 84 二六三 10

十 93 二六四 2

十一 109 二六四 13

十 90 二六四 1

十 92 二六四 2

正 2 二五九 10

二 14 二六〇 4

三 22 二六〇 11

六 52 二六二 1

七 65 二六二 10

八 72 二六三 1

正 7 二五九 12

正 3 二五九 10

二 14 二六〇 4

五 45 二六一 12

六 53 二六一 1

七 67 二六一 11

八 72 二六三 1

九 84 二六三 10

披 御披見類思可令加直筆給候。

注・日本教科書大系は、「御披見之□、□思、可令加直筆給候。」とする。

押 令申押返之条、狹所可思食事歎。

拂 其趣、拂底難申候也。

招 且為招災得科計、歎。

注・金沢文庫本によると、「歎」は「也」とある。

拜 每事期面拜之時候。

手部

六畫

無指事故、令申押返之条、

注・金沢文庫本では、「無指」部分が欠損している。

手部

七畫

於軍陣脇插弓箭、

注・金沢文庫本によると、「脇」は「腋」とある。また、「挿弓箭」部分が欠損している。

手部

十畫

搜 搜字、横豎之趣、

手部

十三畫

據 實此語得據者也。

支部

三畫

改書古文云。

故

五畫

々(草)又不通真故也。

故此品名、曰畫書。

無指事故、令申押返之条、

注・金沢文庫本では、「無指」部分が欠損している。

名詮自性之故、依額跡所繁昌有人。

喻筆勢与書、態不舉慎、憚故也。

金序 11 二五九 7

五 44 二六一 11

九 84 二六三 10

七 69 二六二 12

正 10 二五九 13

五 44 二六一 11

十 99 二六四 6

四 34 二六一 3

十 98 二六四 5

金序 7 二五九 6

四 31 二六一 2

二 17 二六〇 6

四 30 二六一 1

五 44 二六一 11

八 74 二六三 2

十 93 二六四 2

彼量^リ上^ハ六^ハ字^ハ故^ハ字^ハ形^ハ易^シ、覺^シ吉^シ。
故^ハ不^レ知^ル無^ク下^ニ。

故^ハ失^レ字^ハ跡^ニ。

故^ハ節^ハ高^ク無^ク續^ク、有^ル文^ハ字^ハ形^ニ。

注：日本教科書大系は、「續」を「續」とする。

自^レ文^ハ字^ハ起^ル故^ニ云^フ々^ニ。

支部 七畫

若有^ル其^ノ器^量者^ハ、能^ク書^キ教^シ立^テ、存^シ思^ヒ給^フ候^ニ。

以此^ノ趣^ニ可^ク令^テ申^ス御^ノ教^ヲ訓^シ給^フ候^ニ。

以此^ノ趣^ニ大^ニ様^ニ彼^ノ人^ニ、可^ク令^テ申^ス御^ノ教^ヲ達^ス給^フ候^ニ。

件^ノ物^等、彼^ノ少^ク人^ニ調^シ進^ス、可^ク被^テ申^ス御^ノ教^ヲ訓^シ歟^ニ。

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

文部

文

非^レ態^ニ作^ル文^者、其^ノ謬^多候^ニ覽^ス歟^ニ。

又^レ文^字、以^テ何^ノ様^ニ、宗^ヲ可^ク令^テ書^キ好^ク候^ニ。

所^レ仰^テ遣^テ候^處文^字、様^ニ云^フ事^ト、

蒼^ク頤^シ始^メ字^ヲ造^リ時^ニ、六^十四^篇定^ム文^字形^ト。

改^メ書^キ古^文、云^フ。

古^文、生^キ様[、]意^義形[、]真^實様[、]例^示書^是也^ト。

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

抑^テ善^ク惡^ク書^キ文^字、何^ノ様^ニ書^キ、

何^ノ様^ニ書^キ、文^字形^ト出^ル來^ル。

彼^ノ子^細者[、]文^字不^レ候^歟。

抑^テ文^字形^事者[、]

和^尚既^ニ文^間普^ク白^ク黑^ク等[、]

詩^哥文^等無^ク畫^者、時^景季[、]或^ク可^ク令^テ隨^テ主^ノ好^ク也^ト。

古^文、草^文、併^シ可^ク隨^テ内^題也^ト。

『手習字往来』漢字索引

十	98	二六四5
十一	109	二六四13
金十二	87	二六五9
金十二	88	二六五10
金十二	93	二六五12
正	5	二五九11
二	19	二六〇7
六	63	二六二7
十	100	二六四6
金序	10	二五九7
三	23	二六〇11
四	29	二六一1
四	30	二六一1
四	31	二六一2
四	37	二六一5
五	46	二六一12
五	46	二六一12
五	49	二六一13
六	53	二六一1
六	53	二六一2
八	76	二六三3
八	78	二六三4

古^文、草^文、併^シ可^ク隨^テ内^題也^ト。

一^ノ文^字形^ハ疾^ク吉^シ。

五^ノ雙^紙、每^面造^リ付^ル文^字量^ト。

有^ル文^字形^ト。

案^ハ合^ス此^ノ二^筋、以^テ有^ル文^字、可^ク為^ス本^也。

自^レ文^ハ字^ハ起^ル故^ニ云^フ々^ニ。

斗部

科^斗、雲^出、大^篆、小^篆、

注：「雲出」は「雲書」の誤写か。

斗部

抑^テ手^習料^帛、

斤部

四^本被^テ近^付、本^字、新^差別[、]疾^覺。

方部

亦^レ本^字之^上置^テ同^寸方^量。

方部

於^レ軍^陣脇^挿弓^箭、

注：金沢文庫本によると、「脇」は「腋」とある。また「挿弓箭」部分が欠損している。

又^テ於^テ一^切事[、]有^ル難^有咎^ト。

注：金沢文庫本によると、「一切」の後に「之」とある。

方部

旁^雖多^ク其^憚、為^シ隨^テ愛^童情^ト、

旁^非本^意。

无部

五^畫

抑^テ文^字形^事者[、]和^尚既^ニ文^間普^ク白^ク黑^ク等[、]

日部

八	78	二六三5
十	94	二六四3
十	97	二六四4
金十二	88	二六五10
金十二	92	二六五11
金十二	93	二六五12
四	35	二六一4
十	96	二六四4
十	98	二六四5
四	34	二六一3
五	48	二六一13
金序	3	二五九4
八	81	二六三7
六	53	二六一1

『手習字往来』漢字索引

日

正月十六日
去月十六日御札今月二日到來。
去月十六日御札今月二日到來。

二月六日

三月廿六日

四月朔日

五月廿八日

注：金沢文庫本によると、「五月六日」とある。

六月三日

一日御消息思忘不令申事、返々遺恨候。

七月晦日

八月十八日

九月廿七日

十月廿四日

十一月廿五日

十二月八日

十二月三日

日部
二畫
任仰旨粗注進之。

日部
四畫

昌 名詮自性之故、依額跡所繁昌有人。

明 見明鏡也。

易 行勝易真草者也。

彼量上十六字故字形易覺吉。

日部
五畫

是 任問非之次第、是書連、

大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。

正 11 二六〇 1

二 13 二六〇 4

二 13 二六〇 4

二 20 二六〇 8

三 28 二六〇 14

四 43 二六一 9

五 51 二六一 15

六 64 二六一 8

七 66 二六一 11

七 71 二六一 14

八 82 二六三 8

九 89 二六三 14

十 104 二六四 9

十一 111 二六五 1

十二 118 二六五 6

金 122 95 二六五 13

十 90 二六四 1

八 74 二六三 2

六 56 二六一 3

二 15 二六〇 5

十 99 二六四 5

金 序 9 二五九 6

四 36 二六一 5

古文、生様、意形、真様、例書是也。

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

齡書内、畧點、朽書等是也。

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、厝爪是也。

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。

是如次當真行草也。

注：金沢文庫本によると、「真」は「信」とある。

是以為見付。

日部
六畫

時 每事期面拜之時候。

彼三様者、自何時代起哉。

額碑銘等之字形、令書寫之時、

當時者似無要、將來者、尤可有用歟。

蒼頡始字造時、六十四篇定文形。

真書起自此時。

秦軍連々忿劇之時、

貴殿御生存之時、

注：金沢文庫本によると、「貴殿御生存」は「貴殿之御存」とある。

詩哥文等無畫者、時景季、或可令隨主好也。

手習初心之時、以車雙帟為第一。

日部
七畫

晦 七月晦日

日部
八畫

普 抑文形事者、和尚既文間普白黑白等、

景 詩哥文等無畫者、時景季、或可令隨主好也。

日部

日 私取心、名曰手習覺往来。

四 37 二六一 5

四 38 二六一 6

四 40 二六一 7

六 61 二六一 6

金 122 89 二六五 10

正 10 二五九 13

三 22 二六〇 11

三 25 二六〇 12

三 25 二六〇 12

三 25 二六〇 13

四 30 二六一 1

四 32 二六一 2

四 33 二六一 3

七 65 二六一 10

八 76 二六三 3

十 93 二六四 3

七 71 二六一 14

六 53 二六一 2

八 76 二六三 3

金 序 10 二五九 7

故此品名曰畫書。
彼手曰如此。
四三十一 二六一二
二六四一三

日部

次字難事者、仆、短、曲、
草曲、為難也。
六六一 二六二六
六六二 二六二六

日部

六畫
任問非之次第、是書連、
書字事無窮。
金序九 二五九六
正四 二五九一〇

何無勝劣書候。
若有其器量者、能書教立、存思給候。
正四 二五九一一
正五 二五九一二

纒抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。
抑手習始、先習行書。
正七 二五九一三
二一四 二六〇四

得筆自在之後、可令習真書也。
行書、定而通真草。
二一五 二六〇五
二一八 二六〇六

又文字、以何様、宗、可令書好候。
若成能書、
三二三 二六〇一〇
三二四 二六〇一二

額碑銘等之字、形、令書寫之時、
難書候之間、當時者似無要、
三二五 二六〇一二
三三〇 二六〇一七

如其物質、書二字。
故此品名曰畫書。
四三〇 二六一一
四三一 二六一二

改書古文云。
真書起自此時。
四三二 二六一二
四三二 二六一二

行書者鳥王之後、
能書、物念、書出様、行云。
四三二 二六一二
四三三 二六一三

能書、物念、書出様、行云。
能書、物念、書出様、行云。
四三三 二六一三
四三三 二六一三

乍立念々書出様名、草書也。
乍立念々書出様名、草書也。
四三三 二六一三
四三三 二六一三

乍立念々書出様名、草書也。
乍立念々書出様名、草書也。
四三三 二六一三
四三五 二六一四

『手習学往来』漢字索引

注：金沢文庫本によると、「乍立」の「立」はない。また、「也」部分が欠損

している。

所謂書内、科斗、雲出、大篆、
四三五 二六一四

所謂書内、科斗、雲出、大篆、
四三六 二六一四

次鳥書内、古文、生様、
注：金沢文庫本によると、「鳥」は「馬」とある。
四三七 二六一五

古文、生様、意形、真様、例書是也。
注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。
四三七 二六一五

齡書内、畧點、朽書等是也。
注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。
四三八 二六一六

抑付善惡書、文字、何様書、
抑付善惡書、文字、何様書、
四三八 二六一六

此二様、返為、非能書、
經書、外題等、何以、字書、可令書候哉。
四三九 二六一七

經書、外題等、何以、字書、可令書候哉。
經書、外題等、何以、字書、可令書候哉。
四四〇 二六一七

徒、書穢、且者壞、由緒不知謗。
注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。
四四〇 二六一七

能々請談計、可令書也。
注：金沢文庫本によると、「也」の後に「云々」とある。
四四一 二六一八

次經書上書、可隨内題。
次經書上書、可隨内題。
四四二 二六一八

但信草、隨主書事、常、法例也。
注：金沢文庫本によると、「常」は「當」とある。また、「書」は「之」か。
四四三 二六一九

崎、以如針、可書之。
不打紙、可書之。
四四四 二六二〇

不打紙、可書之。
不打紙、可書之。
四四四 二六二〇

不打紙、可書之。
不打紙、可書之。
四四四 二六二〇

『手習字往来』漢字索引

草書、梵字等、砂、可習也。
 喻、筆勢与書、態不舉慎、憚故也。
 一字、能力、千字、不被書。
 愚習以千字之力、不得書無一字者也。
 至書假字者、其様候哉否。
 又何様續為難書。
 (前欠) 山不同可書也。
 二行並書籍、自此品起。
 能書相傳之人之假字、

十 92 二六四 2
 十 93 二六四 2
 十 102 二六四 7
 十 103 二六四 8
 十一 108 二六四 12
 十一 109 二六四 13
 金十二 85 二六五 9
 金十二 85 二六五 9
 金十二 90 二六五 11

月部

正月十六日
 去月十六日御札今月二日到来。
 去月十六日御札今月二日到来。
 二月六日
 三月廿六日
 四月朔日
 五月廿八日

正 11 二六〇 1
 二 13 二六〇 4
 二 13 二六〇 4
 二 20 二六〇 8
 三 28 二六〇 14
 四 43 二六一 9
 五 51 二六一 15

注：金沢文庫本によると、「五月六日」とある。

月部

有 但有古賢語。
 二畫

金序 5 二五九 5

六月三日
 七月晦日
 八月十八日
 九月廿七日
 十月廿四日
 十一月廿五日
 十二月八日
 十二月三日

六 64 二六一 8
 七 71 二六一 14
 八 82 二六三 8
 九 89 二六三 14
 十 104 二六四 9
 十一 111 二六五 1
 十二 118 二六五 6
 金十二 95 二六五 13

若有其器量者、能書教立、存思給候。
 當時者似、無要、将来者、尤可用歟。
 可有御高覽候歟。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

又於一切事、有難有咎。

又於一切事、有難有咎。

注：金沢文庫本によると、「一切」の後に「之」とある。

垂露、懸針、定給上、不可有別風情歟。

注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

墨、厚、薄、事、有、得、筆、

其、厚、墨、者、有、行、終。

薄、墨、者、有、行、上。

抑、額、字、其、所、素、有、額。

名、詮、自、性、之、故、依、額、鉢、所、繁、昌、有、人。

又、色、帚、形、者、有、畫、々、意。

竹、筆、兔、筆、麁、筆、之、間、結、様、有、和、強。

毛、品、有、太、細。

可有御心得也。

只有此事歟。

有恩顧、細々可蒙仰候。

有文字形。

有字無續也。

注：日本教科書大系は、「續」を「續」とする。

案合此二筋、以有文字、可為本也。

月部

朔 四月朔日

月部

八畫

四 43 二六一 9

金十二 92 二六五 11

金十二 88 二六五 10

金十二 91 二六五 11

十一 110 二六四 13

十一 107 二六四 12

十 103 二六四 8

九 86 二六三 12

九 86 二六三 11

八 76 二六三 3

八 75 二六三 2

八 72 二六三 1

六 59 二六二 5

六 59 二六二 4

六 55 二六一 3

六 55 二六一 2

五 48 二六一 13

五 48 二六一 13

五 45 二六一 11

正 5 二五九 11

三 26 二六〇 13

四 41 二六一 7

五 45 二六一 11

朝

宮内卿藤原朝臣行能 二二〇 二六〇 八
宮内卿藤原朝臣行能 四四三 二六一 九

注：金沢文庫本によると、「朝」の後に「臣」はない。

藤原朝臣行能 六六四 二六二 八

注：金沢文庫本によると、「宮内卿藤原朝臣行能」とある。

期 我朝、高野、大師、御作候之間、 十二二 二六五 三
每事期面拜之時候。 正九 二五九 一三
每事期後信。 七七〇 二六二 一三

月部 月部 正二 二五九 一〇

藤 良久不申承、藤爵甚深。

木部 抑手習料帟、々(帟) 木竹、砂、 九八四 二六三 一〇

木部 一畫 厚薄之字者、以三字為本、 六六〇 二六一 五

本 注：金沢文庫本によると、「厚薄之」の「之」はない。また、「者以」は確認不能。

采福者、不可違本樣。 八七三 二六三 一
旁非本意。 八八一 二六三 七

注：金沢文庫本によると、「本意」の後に「候」とある。

四本、被近付、本字、新差別、疾覚。 十 九六 二六四 四
四本、被近付、本字、新差別、疾覚。 十 九六 二六四 四
亦本字之上、置同寸方量。 十 九七 二六四 五

山寺假字者、尅々本字、 金十二 八八 二六五 一〇
案合此二筋、以有文字、可為本也。 金十二 九三 二六五 一二

一札 去月十六日御札今月二日到来。 二一三 二六〇 四

木部 二畫 朽書内、畧點、朽書等是也。 四三八 二六一 六

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

『手習字往来』漢字索引

木部 三畫

手習字問之条付、奉問答。 金序 三 二五九 四
令申押返之条、狹所可思食事歟。 五四四 二六一 一

仰遣条々事等、併承了。 八七二 二六三 一
仰遣条々事等、併承了。 八七二 二六三 一

注：金沢文庫本によると、「承」の後に「候」とある。

令問給取其条、 八八〇 二六三 六

注：金沢文庫本によると、「取」は「歟」とある。「所」の誤字か。

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。 九八八 二六三 一三
無其事令申子細之条、 一一一〇六 二六四 一

私取心、名曰手習覚往来。 金序 一〇 二五九 七
去月十六日御札今月二日到来。 二一三 二六〇 四

當時者似、無妻、将来者、尤可有用歟。 三二五 二六〇 一三
何樣書、文形出来。 五四六 二六一 一

木部 五畫 采福者、不可違本樣。 八七三 二六三 一

木部 六畫 案合此二筋、以有文字、可為本也。 金十二 九二 二六五 一

案 出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。 金序 六 二五九 六

木部 七畫 右三箇條子細、予承定、及、意、程争惜之、 六五二 二六一 一

條 草書、梵字等、砂、可習也。 十 九二 二六四 二

木部 十一畫 彼三樣者、自、何、時代、起、哉。 三二二 二六〇 一

又文字、以、何、樣、宗、可、令、書、好、候。 三二三 二六〇 一

所仰遣候處文字、樣、云、事、物、念、書、出、樣、行、云、。

乍立念々書出樣名、草書也。 四三三 二六一 三

『手習字往来』漢字索引

注…金沢文庫本によると、「乍立」の「立」はない。また、「也」部分が欠損している。

彼、三様、内、十八形、定。 四三 二六一 4

古文、生様、意形、真様、例書是也。 四三 二六一 5

古文、生様、意形、真様、例書是也。 四三 二六一 5

注…金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

此十二様、惣合為、六、 四三 二六一 6

抑付善悪書ニ文字、何様書、 五四 二六一 12

此二様返、為ニ非能書、 六五 二六一 3

以此趣、大様彼人、可令申、御教達給候。 六三 二六一 7

注…金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

栄福者、不可違二本様。 八七 二六三 1

唐筆、竹筆、兔筆、藁筆之間、結様有和強。 九八 二六三 11

喻、自強力一人、弱、輩万人勝様、 一〇 二六四 7

至書假字者、其様候哉否。 一一 二六四 12

又何様續為難書。 一一 二六四 13

権 権少僧都祐幸 正 一一 二六〇 1

宮内卿権少輔殿 正 一二 二六〇 2

横 搜字、横豎之趣、 一〇 二六四 5

木部二十二畫 正 二 二五九 10

爵 良久不申承、朦朧甚深。 正 二 二五九 10

欠部 二畫 金序 九 二五九 6

次 因之為後代之少童等、任問非之次第、 四三 二六一 5

次鳥書、内、古文、生様、意形、 四三 二六一 5

注…金沢文庫本によると、「鳥」は「馬」とある。

次墨續事者、 六五 二六一 4

次字難事者、 六六 二六一 5

是、如、次、當、真、行、草、也。 六一 二六一 6

注…金沢文庫本によると、「真」は「信」とある。

次經書上書、可随内題。 八七 二六三 4

注…金沢文庫本によると、「上書」の後に「者」とある。

欠部 十四畫 金序 11 二五九 7

非態作文者、其謬多候覽歟。 二九 二六〇 7

餘不通一歟。 三六 二六〇 13

當時者似無一要、将来者、尤可有用歟。 四一 二六一 8

可有御高覽候歟。 四五 二六一 11

令申押返之条、狹所可思食事歟。 五九 二六一 13

彼子細者、文字、不候歟。 六五 二六二 2

注…金沢文庫本によると、「子細」の後に「者」はない。

垂露、懸針、定、給、上、不可有別風情歟。 七〇 二六二 13

注…金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

我人、令申後悔歟。 七〇 二六二 13

且為招災得科計、歟。 一一 二六四 12

注…金沢文庫本によると、「歟」は「也」とある。

件、物等、彼少人、調進、可被申御教訓、歟。 一一 二六四 12

奏帝王申事、可為等同者、歟。 一一 二六四 12

止部 一畫 正 11 二六〇 1

只有此事歟。 正 11 二六〇 1

止部 二畫 金序 7 二五九 6

實此語得據者也。 二九 二六〇 7

以此趣可令下申、御教訓、給、上、候。 四〇 二六一 7

故此品名、曰、畫、書、一。 四二 二六一 1

真書起自此時。 四三 二六一 2

此十二様、惣合為、六、 四三 二六一 2

已上彼此十八形也。 四四 二六一 7

此二様返^ツ為^ニ非能書^ハ、
以此趣大様彼人、可令申^テ御教達給候。

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

如此事等不申承者、定御没入^ツ之後、
如此不令申問候、

只有此事歟。
彼手曰如此。

二行並書籍、自此品起。

案合此二筋、以有文字、可為本也。

受部

九畫
宮内卿權少輔殿

貴殿御生存之時、

注：金沢文庫本によると、「貴殿御生存」は「貴殿之御存」とある。

母部

每
每事期面拜之時候。

每事不一。

每事期後信。

五雙紙、每面造付文字量。

毛部

毛品有太細。

草習結強毛和筆。

气部

六畫
無人氣之間、重而令申候。

水部

大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。

三筆跡水付無煩吉。

水部

四畫
十 95 二六四 4

沒
如此事等不申承者、定御没入^ツ之後、

五畫
積季六十一老法師之、

然而且興隆仏法、可有御存知候。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

但信草隨主書事、常法例也。

注：金沢文庫本によると、「常」は「當」とある。また、「書」は「之」か。

注
委蒼頡六十四篇与大師筆注集、

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十」とある。

筆注集被^ニ分別^ニ云々。

任仰旨粗注進之。

但与依仰事注申。

水部

消
一日御消息思忘^レ不令申事、返々遺恨候。

二消息先長吉。

水部

深
良久不申承、朦朧甚深。

十畫

水部

漢
々々(通仕)如^ハ三聞^ニ知^ル和漢音、

三畫

火部

災
且為招災得科計^ハ歟。

注：金沢文庫本によると、「歟」は「也」とある。

火部

為
旁雖多其憚、為隨愛童情、

因之為後代之少童等、任問非之次第、

此十二様惣合^セ為^ス一六、

此二様返^ツ為^ニ非能書^ハ、

金序 2 二五九 4

五 45 二六一 11

八 79 二六三 5

四 41 二六一 7

六 57 二六一 4

十 90 二六四 1

十二 114 二六五 3

七 66 二六一 11

十 95 二六四 3

正 2 二五九 10

二 18 二六〇 6

七 69 二六一 12

金序 4 二五九 5

金序 8 二五九 6

四 38 二六一 6

六 56 二六一 3

『手習字往来』漢字索引

厚薄之字者、以三字為本、

注：金沢文庫本によると、「厚薄之」の「之」はない。また、「者以」は確認

不能。

草曲^{ハユカメルヲ} 為難也。

且為招災得科計^{ハカリコトヲ} 歟。

注：金沢文庫本によると、「歟」は「也」とある。

何為勝、何可為劣^{ナリト} 哉。

何為勝、何可為劣^{ナリト} 哉。

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。

手習初心之時、以車雙舁為第一。

奏帝王申事、可為等同者歟。

諸事免許者、為自他幸。

又何様續為難書。

下續、下為難。

是以為見付。

續吉為習者、付字可好也。

案合此二筋、以有文字、可為本也。

火部

蒼頡之後、烏王傳之。

注：日本教科書大系によると、「烏」は金沢文庫本に「禹」とあるという。

行書者烏王之後、

次烏書内、古文、生様、意形、真様、

注：金沢文庫本によると、「烏」は「禹」とある。

火部

無 書字事無窮。

何無勝劣書候。

當時者似^{トモ}無^{トモ}要^ニ、将来者、尤可有^レ用歟。

無指事故、令申押返之条、

六〇 二六二五

六六 二六二六

七九 二六二七

九八 二六二八

九七 二六二九

九八 二六三〇

九八 二六三一

九八 二六三二

九八 二六三三

九八 二六三四

九八 二六三五

九八 二六三六

九八 二六三七

九八 二六三八

九八 二六三九

注：金沢文庫本では、「無指」部分が欠損している。

二字、自無、咎云々。

詩哥文等無畫者、時景季、或可令随主好也。

三筆跡水付無煩吉。

愚、習以千字之力、不得書無一字者也。

無其事令申子細之条、

故不知無下。

無人氣之間、重而令申候。

無上字者不其限。

故節高無續、有文字形。

注：日本教科書大系は、「續」を「續」とする。

有字無續也。

注：日本教科書大系は、「且」の後に「者」とある。

然 然而且、興隆仏法、可有御存知候。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

然而貴人色形、御扇等見、

然乍置上字、上、不續。

然則雖俗家、能書相傳之人之假字、

火部

九畫 三筆跡水付無煩吉。

爪部

垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、帛爪是也。

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。

牛部

四畫 如其物質、書字。

物念、書出様、行云。

件物等、彼少人調進、可被申御教訓歟。

犬部

三畫

六〇 二六二五

八七 二六二三

九八 二六四四

一〇三 二六四八

一〇五 二六四四

一〇九 二六四四

一一〇 二六四四

状 彼少童随問状、

九八三 二二六三 一〇

犬部 七畫

狹 令申押返之条、狹所可思食事歟。

五四四 二二六一 一一

玉部

王 蒼頤之後、烏王傳之。

四三二 二二六一 二

注：日本教科書大系によると、「鳥」は金沢文庫本に「馬」とあるという。

行書者烏王之後、
奏帝王申事、可為等同者、歟。

甘部 四畫

甚 良久不申承、朦朧甚深。

正二 二二五九 一〇

生部

生 委細被仰候者、生前之大幸令存候。

正九 二二五九 一三

古文、生様、意形、真様、例書是也。

四三七 二二六一 五

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

貴殿、御生存之時、

七六五 二二六一 二〇

用部

用 右依少髡之要用、

金序一 二二五九 四

将来者、尤可有用歟。

三二六 二二六一 一三

田部

由 恐々、事之由、所奉令申問也。

三二六 二二六一 一三

徒 書穢、且者壞、由緒不知謗。

七六九 二二六一 二二

注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。

令申之間義惜、由困、定可思食事、

八八一 二二六一 三六

注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

申

申 良久不申承、朦朧甚深。

正二 二二五九 一〇

以此趣可令下申、御教訓給上候。

二一九 二二六一 〇七

恐々、事之由、所奉令申問也。

三二六 二二六一 一三

『手習学往来』漢字索引

令申押返之条、狹所可思食事歟。

五四四 二二六一 一一

以此趣、大様彼人、可令申、御教達給候。

六六三 二二六一 〇七

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

如此事等不申承者、定御没入、之後、

七六五 二二六一 一〇

我人、令申後悔歟。

七六六 二二六一 一〇

一日御消息思忘、不令申事、返々遺恨候。

七六七 二二六一 一一

令申之間義惜、由困、定可思食事、

八八一 二二六一 三六

注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

又弊僧之随思出申候間、

九八三 二二六一 三〇

其趣、拂底難申候也。

九八四 二二六一 三〇

如此不令申問候、

九八七 二二六一 三二

件、物等、彼少人、調進、可被申御教訓、歟。

一〇〇 二二六一 四六

都、自一字能習、千字愚習申也。

一〇一 二二六一 四七

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

無其事令申子細之条、

一一〇六 二二六一 四一

奏帝王申事、可為等同者、歟。

一一一〇六 二二六一 四一

無人氣之間、重而令申候。

一一一〇 二二六一 四三

但与依仰事注申。

一一一四 二二六一 四四

委并不面談者、難申盡候者也。

一一二九四 二二六一 五二

注：日本教科書大系は、「并」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

田部 二畫

男 凡男女假字者、

金一二八六 二二六一 五九

田部 五畫

留 天・留・可・郎・尔・也・六・美九字、

一二一一四 二二六一 五四

田部 六畫

畧 具以承候畢。

二一四 二二六一 〇四

畧 真行草之趣、委承候畢。

三二二 二二六一 〇一

畧 齡書内、畧點、朽書等是也。

四三八 二二六一 〇六

『手習字往来』漢字索引

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

田部

七畫
故此品名曰畫書。

又色帛形者、有畫々意。

又色帛形者、有畫々意。

詩哥文等無畫者、時景季、或可令隨主好也。

只任于畫意云々。

注：金沢文庫本によると、「畫意」は「書意」とある。

田部

八畫

久乃寺別當僧都御坊

當時者似無要、將來者、尤可有用歟。

是如次當真行草也。

注：金沢文庫本によると、「真」は「信」とある。

疾部

一文字形疾吉。

四本被近付、本字、新差別、疾覺。

白部

抑文形事者、和尚既、文間普、白黑白等、抑文形事者、和尚既、文間普、白黑白等、

白部

四畫

皆人、被知食事也。

皿部

九畫

委并不面談者、難申盡候者也。

注：日本教科書大系は、「井」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

目部

行者真假躰、草、骨目也。

直部

三畫

御披見類思可令加直筆給候。

目部

四畫
能書相傳之人之假字、

五畫

真行草之中、何可令始習候哉。

得筆自在之後、可令習真書也。

行、勝、易、真草、者、也。

行、者、真假躰、草、骨目也。

行、通、真草。

真、不、通、真草。

々々(草)又不通真故也。

行書、定而通真草。

真行草之趣、委承候畢。

真書起自此時。

古文、生様、意形、真様、例書是也。

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

是如次當真行草也。

注：金沢文庫本によると、「真」は「信」とある。

謂真、難、行短、難。

注：金沢文庫本によると、「真」は「信」とある。

目部

十三畫
瞻、初額、諸寺諸社之瞻古額之躰、

注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

知、三畫
祐幸素、如被知食、

不知字躰之趣候。

々々(通仕)如聞、知、和漢音、

令書寫之時、不知子細、

注：日本教科書大系は、「御披見之口、口思可令加直筆給候。」とする。

金十二 90 二六五 11

正 6 二五九 11

二 15 二六〇 5

二 15 二六〇 5

二 16 二六〇 5

二 16 二六〇 5

二 17 二六〇 5

二 17 二六〇 5

二 18 二六〇 6

二 18 二六〇 6

四 32 二六一 2

四 37 二六一 5

六 61 二六一 6

六 62 二六一 6

八 73 二六三 2

正 7 二五九 12

正 8 二五九 12

二 18 二六〇 6

三 25 二六〇 12

然而且興隆仏法、可有御存知候。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

不知巨細

徒書穢、且者壞、由緒不知謗。

注：金沢文庫本によると、「壞」は「穢」とある。

依難知、乍恐、度々奉驚高聽之衆、

故不知無下。

皆人、被知食事也。

矢部

七畫

短 同左短右長。

次字難、事者、仆、短、曲、

行短、難、草曲、為難也。

石部

砂

抑手習料帟、々(帟)木竹、砂、

石部

九畫

額碑銘等之字形、令書寫之時、

磨

十一畫

墨又厚薄、磨候。

薄磨不得厚、可磨。

薄磨不得厚、可磨。

此二様、返、為、非能書、磨不得。

示部

三畫

初額、諸寺諸社之瞻古額之躰、

示部

五畫

注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

祐 祐幸素、如被知食、

權少僧都祐幸

祐幸

祐幸

注：金沢文庫本によると、「權少僧都祐幸」とある。

祐幸

祐幸

祐幸

示部

九畫

榮福者、不可違二本様。

禾部

二畫

私取心、名曰手習覺往來。

禾部

三畫

積季六十一老法師之、

禾部

四畫

所謂書内、科斗、

禾部

五畫

且為招災得科計、

禾部

七畫

右三箇條子細、予承定、及、意、程、争、惜、之、

積

積季六十一老法師之、

正 6 二二五九 12

正 11 二二六〇 1

三 28 二二六〇 14

五 51 二二六一 15

七 71 二二六一 14

九 89 二二六三 14

十一 111 二二六五 1

八 73 二二六三 1

金序 9 二二五九 7

金序 1 二二五九 4

四 35 二二六一 4

七 69 二二六一 13

六 53 二二六一 1

四 32 二二六一 3

六 52 二二六一 1

十 99 二二六四 6

金序 1 二二五九 4

禾部 十三畫

徒、書穢、且者壞、由緒不知誇。

七九 二六二二

注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。

穴部

穴部 十畫

出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

金序 7 二五九 6

窮

書字事無窮。

正 4 二五九 11

立部

立

若有其器量者、能書教立、存思給候。

正 5 二五九 11

乍立、念々書出様名、草書也。

四 34 二六一 4

注：金沢文庫本によると、「乍立」の「立」はない。また、「也」部分が欠損している。

立部 六畫

章

初額、諸寺諸社之瞻古額之躰、可章。

八 74 二六三 2

注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

「可章」部分は、金沢文庫本によると、「可草文」か。日本教科書大系では、「立筆」とする。

立部 七畫

童

旁雖多其憚、為隨愛童情、

金序 4 二五九 5

因之為後代之少童等、任問非之次第、

金序 8 二五九 6

抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

正 3 二五九 10

彼少童隨問狀、

九 83 二六三 10

誠依少童、愛憐、聊不恐高覽。

十一 105 二六四 11

立部 八畫

豎

搜字、橫豎之趣、

十 98 二六四 5

竹部

竹

抑手習料帛、々(帛)、木竹、砂、

九 84 二六三 11

簡筆、唐筆、竹筆、兔筆、藁筆之間、

九 85 二六三 11

竹部 第五畫

信習者、打帚、竹等結筆、和筆、

十 90 二六四 1

因之為後代之少童等、任問非之次第、

金序 6 二五九 6

手習初心之時、以車雙帚為第一。

十 94 二六四 3

竹部 六畫

御披見類思可令加直筆給候。

金序 12 二五九 8

抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

正 3 二五九 10

得筆自在之後、可令習真書也。

二 14 二六〇 4

委蒼頡六十四篇與大師筆注集、

四 41 二六一 7

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十一」とある。

墨、厚薄事、有得筆、

六 55 二六一 3

筆注集、被分別云々。

六 57 二六一 4

又筆、○筆、卷上、

九 85 二六三 11

又筆、○筆、卷上、

九 85 二六三 11

注：○は、「私」か。「和」の可能性があるか。

簡筆、唐筆、竹筆、兔筆、藁筆之間、

九 85 二六三 11

唐筆、竹筆、兔筆、藁筆之間、結様有和強。

九 85 二六三 11

唐筆、竹筆、兔筆、藁筆之間、結様有和強。

九 85 二六三 11

唐筆、竹筆、兔筆、藁筆之間、結様有和強。

九 86 二六三 11

唐筆、竹筆、兔筆、藁筆之間、結様有和強。

九 86 二六三 11

信習者、打帚、竹等結筆、和筆、

十 90 二六四 1

信習者、打帚、竹等結筆、和筆、

十 91 二六四 1

草習、結強毛和筆。

十 91 二六四 1

喻筆勢与書、態不舉慎、憚故也。

十 92 二六四 2

三筆跡水付無煩吉。

十 95 二六四 4

等 因之為後代之少童等、任問非之次第、

金序 8 二五九 6

額、碑銘等之字形、令書寫之時、大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。 四三六 二六一五

齡書内、畧點、朽書等是也。 四三八 二六一六

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。 和尙既、文間普白黑白等、同左短右長。 六五四 二六一二

如此事等不申承者、定御没入之後、扇、經書、外題等、 七六五 二六一〇

仰遣条々事等、併承了。 七六八 二六一二

注：金沢文庫本によると、「承」の後に「候」とある。 八七二 二六三一

詩哥文等無畫者、時景季、或可令随主好也。 八七六 二六三三

扇等以同之。 八七七 二六三四

然而貴人色帟形、御扇等見、 八八〇 二六三五

信習者、打帚、竹等結筆、和筆、 九十〇 二六四一

草書、梵字等、砂可習也。 九〇二 二六四二

件物等、彼少人調進、可被申御教訓、 九〇九 二六四六

奏帝王申事、可為等同者、 九一〇 二六四七

案合此二筋、以有文字、可為本也。 九二二 二六五二

筋 簡筆、唐筆、竹筆、兔筆、蘘筆之間、 九二九 二六五九

竹部

答 手習字問之条付、奉問答。 金序三 二五九四

竹部

節 七畫 凡男女假字者、好續節下、故失字跡。 金十二 二六五九

竹部

節 八畫 注：日本教科書大系は、「續」を「續」とする。 故節高無續、有文字形。 金十二 二六五〇

竹部

節 九畫 注：日本教科書大系は、「續」を「續」とする。 右三箇條子細、予承定、及意程争惜之、 六五二 二六二一

竹部

節 九畫 毛品、有太細。 九八六 二六三二

箭 於軍陣脇挿弓箭、 四三四 二六一四

注：金沢文庫本によると、「脇」は「腋」とある。また、「挿弓箭」部分が欠損している。 四三六 二六一五

大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。 四三六 二六一五

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。 蒼頡始字造時、六十四篇定文形。 四三〇 二六一一

委蒼頡六十四篇与大師筆注集、 四四〇 二六一七

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十」とある。 竹部 十四畫 籍 二行並書籍、自此品起。 金十二 二六五九

米部 五畫 任仰旨粗注進之。 九十〇 二六四一

糸部 四畫 不打紙、可書之。 九〇二 二六四二

紙 五雙紙、每面造付文字量。 九〇九 二六四六

↓帟(巾部四畫) 素 祐幸素、如被知食、 正七 二五九二

抑額字、其所素、有額。 八七二 二六三一

糸部 五畫 委細被仰候者、生前之大幸令存候。 正八 二五九二

令書寫之時、不知子細、 三五五 二六〇二

彼子細者、文字不候。 五四九 二六一三

注：金沢文庫本によると、「子細」の後に「者」はない。 右三箇條子細、予承定、及意程争惜之、 六五二 二六二一

不知巨細 七六八 二六二二

毛品、有太細。 九八六 二六三二

無其事令申子細之条、

十一 106 二六四 11

有恩顧、細々可蒙仰候。

十一 110 二六四 14

有恩顧、細々可蒙仰候。

十一 110 二六四 14

其厚墨者有_二行終_一。

六 59 二六二 4

糸部 六畫

結 唐筆、竹筆、兔筆、葉筆之間、結様有和強。

九 86 二六三 11

信習者、打帚、竹等結筆和筆、

十 90 二六四 1

草習 結強毛和筆。

十 91 二六四 1

給 御披見類思可令加直筆給候。

金序 12 二五九 8

注：日本教科書大系は、「御披見之□□思可令加直筆給候。」とする。

若有其器量者、能書教立、存思給候。

正 5 二五九 11

以此趣可_三令_下申_二御教訓_一給上候。

二 19 二六〇 7

垂露、懸針定給上不可有別風情歟。

六 54 二六二 2

注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

以此趣大様彼人、可令申御教達給候。

六 63 二六二 7

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

糸部 七畫

經 抑、額、色、帚形、扇、經書、外題等、

七 68 二六二 11

次經書上書、可随内題。

八 77 二六三 4

注：金沢文庫本によると、「上書」の後に「者」とある。

糸部 八畫

緒 徒書穢、且者壞、由緒不知謗。

七 69 二六二 12

注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。

糸部 十畫

繁 名詮自性之故、依額跡所繁昌有人。

八 74 二六三 2

糸部 十五畫

續 又墨續、若所續、所不續候哉。

五 47 二六一 12

又墨續、若所續、所不續候哉。

五 47 二六一 12

又墨續、若所續、所不續候哉。

五 47 二六一 12

次墨續事者、

六 57 二六二 4

又何様續為難書。

十一 108 二六四 13

尔・也・六・美九字、必上字可續。

十二 115 二六五 4

然乍置上字上、不續。

十二 116 二六五 5

下續、下為難。

十二 116 二六五 5

凡男女假字者、好續節下、故失字跡。

金 12 86 二六五 9

注：日本教科書大系は、「續」を「續」とする。

金 12 88 二六五 10

故節高無續、有文字形。

金 12 89 二六五 10

續吉為習者、付字可好也。

金 12 91 二六五 11

能書相傳之人之假字、有字無續也。

糸部 十七畫

纒 纒抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。

正 7 二五九 12

网部 八畫

置 厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。

六 58 二六二 4

墨置何處、可嫌也。

六 59 二六二 5

亦本字之上、置同寸方量。

十 97 二六四 5

然乍置上字上、不續。

十二 116 二六五 4

上字、自連後者下置、不難。

十二 117 二六五 5

美 天・留・可・郎・尔・也・六・美九字、

十二 115 二六五 4

羊部 三畫

義 令申之間義惜、由困定可思食事、

八 81 二六三 6

注：日本教科書大系では、「義」を「茂」としている。

金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

羽部 五畫

習 手習学問之条付、奉問答。

出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

私取心、名曰手習覚往来。

真行草之中、何可令始習候哉。

抑手習始、先習行書。

抑手習始、先習行書。

得筆自在之後、可令習真書也。

何勝可令好習候。

注：金沢文庫本では、「令好」部分が欠損している。

抑手習料幣

信習者、打帚、竹等結筆和筆、

草習、結強毛和筆。

草書、梵字等、砂可習也。

手習初心之時、以車雙帚為第一。

都、自一字能習、千字愚習申也。

都、自一字能習、千字愚習申也。

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

愚習以千字之力、不得書無一字者也。

續吉為習者、付字可好也。

老部

老 積季六十一老法師之、

老恥天下響云々。

注：日本教科書大系によると、「天下」は「關山か」ともある。

老部 四畫

者 出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

實此語得據者也。

『手習字往来』漢字索引

非態作文者、其謬多候覽歎。

若有其器量者、能書教立、存思給候。

委細被仰候者、生前之大幸令存候。

行、勝、易、真草者也。

行、者真假躰、草、骨目也。

彼三様者、自何時代一起哉。

難書候之間、當時者似無要、

將來者、尤可有 usefulness。

行書者烏王之後、

齡者大臣之間

彼子細者、文字不候歎。

注：金沢文庫本によると、「子細」の後に「者」はない。

一二蒙仰者、

抑文形事者、

次墨續事者、

其、厚墨者有行終。

薄墨者有行上。

厚薄之字者、以三字為本、

注：金沢文庫本によると、「厚薄」の「之」はない。また、「者以」は確認不能。

次字難事者、

如此事等不申承者、定御没入之後、

徒、書穢、且者壞、由緒不知謗。

注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。

栄福者、不可違本様。

衰弊者也。

又色形者、有畫々意。

詩哥文等無畫者、時景季、或可令随主好也。

金序 11 二五九 7

正 5 二五九 11

正 9 二五九 13

二 16 二六〇 5

二 16 二六〇 5

三 22 二六〇 11

三 25 二六〇 13

三 26 二六〇 13

四 32 二六一 2

四 33 二六一 3

五 49 二六一 13

五 49 二六一 13

五 49 二六一 13

六 53 二六一 1

六 53 二六一 1

六 58 二六一 4

六 59 二六一 4

『手習字往来』漢字索引

内信 <small>ナリハ</small> 者外 <small>モ</small> 可信 <small>コトヘ</small>	八 78	二六三 4
信習 <small>シナヒ</small> 者、打帚 <small>ウチハコ</small> 、竹等 <small>タケナド</small> 、結筆 <small>ムスビ</small> 和筆 <small>ワビ</small> 、	十 90	二六四 1
愚習 <small>ウチナヒ</small> 以千字之力 <small>チカラ</small> 、不得書無一字者也。	十 103	二六四 8
奏帝王申事、可為等同者 <small>トナリ</small> 、歟。	十一 107	二六四 12
諸事免許者、為自他 <small>ミタニ</small> 、幸。	十一 107	二六四 12
至書假字 <small>シヤカジ</small> 者、其様候 <small>サマバウ</small> 或否。	十一 108	二六四 12
假字難者、	十二 114	二六五 4
無上字者不其限。	十二 115	二六五 4
上 <small>ウヘ</small> 字 <small>ジ</small> 、自連後者下 <small>シモ</small> 置 <small>オケ</small> 、不 <small>ス</small> 難 <small>カシ</small> 。	十二 117	二六五 5
凡男女假字者、	金十二 86	二六五 9
山寺假字者、剋々本字、	金十二 87	二六五 10
續吉為習者、付字可好也。	金十二 89	二六五 10
委并不面談者、難申盡候者也。	金十二 94	二六五 12
委并不面談者、難申盡候者也。	金十二 94	二六五 12
注：日本教科書大系は、「并」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。	金十二 94	二六五 12
而部		
而行書 <small>ニハ</small> 、定而通 <small>ニ</small> 真草 <small>マコ</small> 。	二 18	二六〇 6
然而且 <small>シカシ</small> 、興隆 <small>キョウリウ</small> 仏法 <small>ブツポフ</small> 、可有御存知候。	五 45	二六一 11
注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。		
仍重而言上。	七 66	二六一 11
注：金沢文庫本によると、「重而」の「而」はない。		
然而貴人色帟形 <small>シロカサガタ</small> 、御扇等見 <small>ミ</small> 、	八 79	二六三 5
無人氣之間、重而令申候。	十一 110	二六四 13
耳部		
五畫		
聊 <small>シヤウ</small> 誠 <small>マコト</small> 依 <small>ヨ</small> 少童 <small>シヤウドウ</small> 、愛憐 <small>アイレン</small> 、聊 <small>シヤウ</small> 不 <small>ス</small> 恐 <small>コソ</small> 高覽 <small>カウラン</small> 。	十一 105	二六四 11
耳部		
八畫		
聞 <small>キク</small> 々々 <small>シバシバ</small> （通仕）如 <small>ハ</small> 三聞 <small>ニ</small> 、一知 <small>ルカ</small> 和漢音 <small>ワカンオン</small> 、	二 18	二六〇 6
耳部		
十六畫		
聽 <small>キコ</small> 度々 <small>タタ</small> 奉驚 <small>ホウキョウ</small> 高聽 <small>カウキコ</small> 之條、為恐尤 <small>オソ</small> 不少候事候。	九 88	二六三 13
肉部		
六畫		
能 <small>ノリ</small> 若有其器量 <small>ノリ</small> 者、能書教立 <small>ノリ</small> 、存思給候。	正 5	二五九 11
宮内卿藤原朝臣行能	二 20	二六〇 8
若成 <small>ニ</small> 能書 <small>ニ</small> 、	三 24	二六〇 12
能書 <small>ニ</small> 物念 <small>ニ</small> 、書出様 <small>ヲ</small> 行 <small>ト</small> 云 <small>フ</small> 。	四 33	二六一 3
宮内卿藤原朝臣行能	四 43	二六一 9
注：金沢文庫本によると、「朝」の後に「臣」はない。		
此 <small>コノ</small> 様 <small>サマ</small> 返 <small>マゼ</small> 、為 <small>ニ</small> 非能書 <small>ニ</small> 、	六 56	二六一 3
藤原朝臣行能	六 64	二六一 8
注：金沢文庫本によると、「宮内卿藤原朝臣行能」とある。		
能々 <small>ノリノリ</small> 請談計 <small>シヨウタンケイ</small> 、可令書也。	八 75	二六三 2
能々 <small>ノリノリ</small> 請談計 <small>シヨウタンケイ</small> 、可令書也。	八 75	二六三 2
注：金沢文庫本によると、「也」の後に「云々」とある。		
藤原行能	八 82	二六三 8
注：金沢文庫本によると、「宮内」 <small>ミヤノチ</small> とある。		
廣 <small>ヒロシ</small> 以中大指 <small>ニ</small> 、取能程也。	十 99	二六四 6
都 <small>ツ</small> 自一字能習 <small>ニ</small> 、千字愚習申也。	十 100	二六四 6
注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。		
一字、能力 <small>チカラ</small> 、千字、不被書。	十 102	二六四 7
宮内卿行能	十 104	二六四 9
宮内卿行能	十二 118	二六五 6
能書相傳之人之假字、	金十二 90	二六五 11
於軍陣脇插弓箭、	四 34	二六一 3
注：金沢文庫本によると、「脇」は「腋」とある。また、「挿弓箭」部分が欠損している。		
臣部		
宮内卿藤原朝臣行能	二 20	二六〇 8

齡者大臣之間

四 33 二六一 3

宮内卿藤原朝臣行能

四 43 二六一 9

藤原朝臣行能

六 64 二六一 8

注：金沢文庫本によると、「朝」の後に「臣」はない。
注：金沢文庫本によると、「宮内卿藤原朝臣行能」とある。

臣部

二畫

抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。

正 4 二五九 10

自部

得筆自在之後、可令習真書也。

二 15 二六〇 4

彼三様者、自何時代起哉。

三 22 二六〇 11

真書起自此時。

四 32 二六一 2

二字自無咎云々。

六 60 二六一 5

名詮自性之故、依額躰所繁昌有人。

八 74 二六三 2

都自一字能習、千字愚習申也。

十 100 二六四 6

注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

諸事免許者、為自他幸。

十 101 二六四 7

上字自連後者下置、不難。

十一 107 二六四 12

二行並書籍、自此品起。

十二 117 二六五 5

至部

至書假字者、其様候哉否。

金十二 85 二六五 9

臼部

九畫

然而且興隆仏法、可有御存知候。

十一 108 二六四 12

白部

十畫

諭筆勢与書、態不舉慎、憚故也。

五 45 二六一 11

艮部

一畫

十 93 二六四 2

良 良久不申承、膝齷甚深。

正 2 二五九 10

色部

抑、額、色、帀形、扇、經書、外題等、

七 67 二六一 11

又色帀形者、有畫々意。

八 75 二六三 3

然而貴人色帀形、御扇等見、

八 79 二六三 5

艸部

五畫

若有其器量者、能書教立、存思給候。

正 5 二五九 11

若成能書、

三 24 二六〇 12

又墨續、若所續、所不續候哉。

五 47 二六一 12

艸部

六畫

真行草之中、何可令始習候哉。

正 6 二五九 11

行勝、易真草者也。

二 15 二六〇 5

行者真假躰、草骨目也。

二 16 二六〇 5

行通真草。

二 16 二六〇 5

真不三通草。

二 17 二六〇 6

々々(草)又不三通真故也。

二 17 二六〇 6

行書定而通真草。

二 18 二六〇 6

真行草之趣、委承候畢。

三 22 二六〇 11

乍立念々書出様名草書也。

四 35 二六一 4

注：金沢文庫本によると、「乍立」の「立」はない。また、「也」部分が欠損している。

是如レ次當真行草也。

六 62 二六一 6

注：金沢文庫本によると、「真」は「信」とある。

古文、草文、併可随内題也。

六 62 二六一 6

但信草、随主書事、常法例也。

八 78 二六三 4

注：金沢文庫本によると、「常」は「當」とある。また、「書」は「之」か。

八 79 二六三 5

『手習字往来』漢字索引

草書、梵字等、砂、可習也。 十 92 二六四 2

艸部 十畫

一一蒙仰者、有恩顧、細々可蒙仰候。 五 49 二六一 14

蒼頡始、字造時、六十四篇定ニ文形。 十一 110 二六四 14

蒼頡之後、鳥王傳之。 四 29 二六一 1

委、蒼頡六十四篇与大師、筆注集、 四 31 二六一 2

注：日本教科書大系によると、「鳥」は金沢文庫本に「萬」とあるという。 四 40 二六一 7

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十」とある。 十三畫

艸部 十三畫 墨又厚薄、磨候。 五 47 二六一 12

墨厚、薄事、有レ得レ筆、 六 55 二六一 2

薄磨不得厚、可磨。 六 55 二六一 3

薄、可磨、筆注集、被、分別ニ云々。 六 57 二六一 3

厚墨、一字、薄墨、一字、不置也。 六 58 二六一 4

薄墨、者有、一行、上。 六 59 二六一 5

厚薄之字者、以三字為本、 六 60 二六一 5

注：金沢文庫本によると、「厚薄之」の「之」はない。また、「者以」は確認不能。 艸部 十五畫

藤部 宮内卿藤原朝臣行能 二 20 二六〇 8

宮内卿藤原朝臣行能 四 43 二六一 9

注：金沢文庫本によると、「朝」の後に「臣」はない。 藤原朝臣行能 六 64 二六一 8

注：金沢文庫本によると、「宮内卿藤原朝臣行能」とある。 藤原行能 八 82 二六三 8

葉 唐筆、竹筆、兔筆、藁筆之間、結様有和強。 九 86 二六三 11

處部 五畫

所仰遺候處文字、様ニ云事、墨置何處、可嫌也。 四 29 二六一 1

行部 抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。 正 3 二五九 10

真行草之中、何可令始習候哉。 正 6 二五九 11

抑手習始、先習行書。 二 14 二六〇 4

行、勝、易、真草、者也。 二 15 二六〇 5

行、者真假躰、草、骨目也。 二 16 二六〇 5

行、通、真草。 二 16 二六〇 5

喻、行、如通仕。 二 17 二六〇 6

行書、定而通、真草。 二 18 二六〇 6

宮内卿藤原朝臣行能 二 20 二六〇 8

真行草之趣、委承候畢。 三 22 二六〇 11

行書者鳥王之後、 四 32 二六一 2

物念、書出様、行、云。 四 34 二六一 3

宮内卿藤原朝臣行能 四 43 二六一 9

注：金沢文庫本によると、「朝」の後に「臣」はない。 其、厚墨者有、一行、終。 六 59 二六一 4

薄墨、者有、一行、上。 六 59 二六一 5

是、如、次、當、真行草、也。 六 61 二六一 6

注：金沢文庫本によると、「真」は「信」とある。 行短、難、草曲、為難也。 六 62 二六一 6

藤原朝臣行能 六 64 二六一 8

注：金沢文庫本によると、「宮内卿藤原朝臣行能」とある。 藤原行能 八 82 二六三 8

宮内卿行能
宮内卿行能
十二 118 二六五 6

二行並書籍、自此品起。
金十二 85 二六五 9

衣部 衰 衰弊者也。
四畫
八 75 二六三 2

衣部 被 抑弊坊被寄宿小童、取筆行住座臥。
五畫
正 3 二五九 10
祐幸素、如被知食、
正 7 二五九 12

委細被仰候者、生前之大幸令存候。
筆注集、被、分別云々。
正 8 二五九 12

四本、被近付、本字、新差別、疾覺。
十 96 二六四 4
件物等、彼少人調進、可被申御教訓、
十 100 二六四 6
一字、能力、千字、不被書。
十 102 二六四 7

兩部 皆人、被知食事也。
十二 113 二六五 3
三畫
要 右依少髧之要用、
金序 1 二五九 4
當時者似、無要、
三 25 二六〇 13

見部 御披見類思、可令加直筆給候。
金序 11 二五九 7
注：日本教科書大系は、「御披見之口、口思、可令加直筆、給候。」とする。

如見、青天。
五 50 二六一 14
見明鏡也。
六 56 二六一 3
然而貴人色帯形、御扇等見、
八 80 二六三 5
是以為見付。
金十二 89 二六五 10

見部 覺 私取心、名曰手習覺往來。
五畫
金序 10 二五九 7
四本、被近付、本字、新差別、疾覺。
十 96 二六四 4
彼量、上十六字故字形易、覺吉。
十 99 二六四 5

『手習学往來』漢字索引

見部 九畫 非態作文者、其謬多候覽歟。
金序 11 二五九 7
可有御高覽候歟。
四 41 二六一 8

誠依少童、愛憐、聊不恐高覽。
十一 105 二六四 11

言部 言 恐々謹言。
金序 二五九 8
注：金沢文庫本によると、「恐々」以下はない。日本教科書大系による。

謹言。
正 10 二五九 13
心事不備謹言。
二 19 二六〇 7

謹言。
三 27 二六〇 13
謹言。
四 42 二六一 8

謹言。
五 50 二六一 14
仍重而言上。
七 66 二六一 11

注：金沢文庫本によると、「重而」の「而」はない。
七 70 二六一 13
謹言。
八 81 二六三 7

謹言。
九 88 二六三 13
恐々謹言。
十 103 二六四 8

只偏少子幼言、奏帝王申事、
十一 106 二六四 11
謹言。
十一 110 二六四 14

不備謹言。
十二 117 二六五 5
恐言。
金十二 94 二六五 12

言部 二畫 且為招災得科計、
七 70 二六一 13
注：金沢文庫本によると、「歟」は「也」とある。

能々請談計、可令書也。
八 75 二六三 3
注：金沢文庫本によると、「也」の後に「云々」とある。

言部

訓 三畫 以此趣可^ニ令^下申^ニ御教訓^ニ給^上候。

件物等、彼少人調進、可被申御教訓、歟。

言部

四畫 纒抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。

許 諸事免許者、為自他、幸。

言部

六畫 詩哥文等無畫者、時景季、或可令随主好也。

詮 名詮自性之故、依額跡所繁昌有人。

言部

誠 依少童愛憐、聊不恐高覽。

言部

七畫 但有古賢語。

語 實此語得據者也。

言部

八畫 件物等、彼少人調進、可被申御教訓、歟。

談 能々請談計、可令書也。

注：金沢文庫本によると、「也」の後に「云々」とある。

委并面談者、難申盡候者也。

注：日本教科書大系は、「并」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

請 能々請談計、可令書也。

注：金沢文庫本によると、「也」の後に「云々」とある。

諸 初額、諸寺諸社之瞻古額之跡、

初額、諸寺諸社之瞻古額之跡、

注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

諸事免許者、為自他、幸。

言部

九畫 所謂書内、

謂懸針、垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、

言部

十畫 謂真^ハ朴^ハ難^ハ、行^ハ短^ハ難^ハ、

徒^ラ書穢^シ、且者壞^イ、由緒不知^ソ謗^ヲ。

注：金沢文庫本によると、「壞」は「懷」とある。

言部

謹 恐々謹言

注：金沢文庫本では、「恐々」以後は欠けている。日本教科書大系による。

謹言。

心不備謹言。

謹言。

謹言。

謹言。

謹言。

恐々謹言。

謹言。

謹言。

不備謹言。

言部

十一畫 非態作文者、其謬多候覽歟。

貝部

五畫 貴殿、御生存之時、

然而貴人色帟形、御扇等見、

注：金沢文庫本によると、「貴殿御生存」は「貴殿之御存」とある。

八畫 但有古賢語。

如^ス其物質^ノ書^ノ字^ニ。

貝部

賢 但有古賢語。

質 如^ス其物質^ノ書^ノ字^ニ。

走部 三畫
起 彼三様者、自^レ何^レ時代^レ起^ル哉。

真書起自此時。
二行並書籍、自此品起。
自文字起故云々。

走部 八畫
不知字跡之趣候。
以此趣可^レ命^下申^二御教訓^一給^上候。

真行草之趣、委承候畢。
以此趣、大様彼^レ人、可^レ命^下申^二御教達^一給^上候。

注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。
其趣、拂底難申候也。

足部 六畫
跡 三筆跡水付無煩吉。

身部 五畫
跡 不知字跡之趣候。

行者真假跡、草^ノ骨^ノ目^也也。
初額、諸寺諸社之贍古額之跡、

注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。
名詮自性之故、依^レ額跡所繁昌有人。

故失字跡。
八 74 二六三 2
金 12 87 二六五 9

車部 二畫
車 手習初心之時、以車雙帟為第一。

軍 二畫
軍 秦軍連々忿劇之時、
於軍陣脇挿^レ弓箭、

注：金沢文庫本によると、「脇」は「腋」とある。また、「挿弓箭」部分が欠

『手習字往来』漢字索引

損している。

車部 七畫
輔 宮内卿權少輔殿

車部 八畫
輩 喻 自強力一人、弱^レ輩万人勝様、

辰部 六畫
農 出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

足部 四畫
近 四本被近付、本字、新差別、疾覺。

返 垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、厝爪是也。

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。
令申押返之条、狹^レ所可思食事歟。

此二様返^レ為^二非能書^一、
一日御消息思忘、不令申事、返々遺恨候。

一日御消息思忘、不令申事、返々遺恨候。

足部 六畫
迴 垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、厝爪是也。

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。
行^レ通^二真草^一。

真^レ不^三通^二草^一。
々々(草)又不^三通^二真^一故也。

喻^レ行^レ如^レ通^二仕^一。
々々(通仕)如^レ聞^二知^一和漢音、

行書定而通^二真草^一。
餘^レ不^二通^二一^一歟。

造 蒼頡始^レ字造時、六十四篇定^二文形^一。
五雙紙、每面造^レ付文字量。

連 任問非之次第、是書連、
秦軍連々念劇之時、
秦軍連々念劇之時、
上字自連後者下置、不難。
八畫

金序 9 二五九 6

進 任仰旨粗注進之。
件物等、彼少人調進、可被申御教訓、歟。
九畫

足部 以此趣、大様彼人、可令申御教達給候。
注：金沢文庫本によると、文末の「候」はない。

達 十畫

足部 所仰遣候處文字様云事、
仰遣条々事等、併承了。
注：金沢文庫本によると、「承」の後に「候」とある。

遣 右仰遣假名字事、
栄福者、不可違本様。
十二畫

足部 一日御消息思忘不令申事、返々遣恨候。

遣 六畫

邑部 郎天・留・可・郎・尔・也・六・美九字、
八畫

都 權少僧都祐幸
久乃寺別當僧都御坊
都自一字能習、千字愚習申也。
注：「申」の前に「勝」が脱落しているか。

里部 仍重而言上。
注：金沢文庫本によると、「重而」の「而」はない。

重 七 66 二六二 11

里部 無人氣之間、重而令申候。
四畫

野 我朝、高野、大師、御作候之間、
五畫

量 若有其器量者、能書教立、存思給候。
五雙紙、毎面造付文字量。
亦本字之上置同寸方量。
彼量、上六字故字形易、覺吉。

金部 謂懸針、垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、
二畫

針 垂露、懸針定給上、不可有別風情歟。
注：金沢文庫本では、「懸針」部分が欠損している。
注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

金部 額、碑銘等之字形、令書寫之時、
十一畫

鏡 見明鏡也。

長部 同左短右長。
二消息先長吉。

門部 一二蒙仰者、只雲霧、如見青天。
注：金沢文庫本によると、「只雲霧」は「只開雲霧」とある。東大本の脱落か。

開 出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。
纔抄出許刻書候之間、不知字跡之趣候。
難書候之間、當時者似無要、
齡者大臣之間

間 正 5 二五九 11

正 8 二五九 12

正 25 二六〇 13

四 33 二六一 3

五 50 二六一 14

金序 6 二五九 5

正 8 二五九 12

正 25 二六〇 13

四 33 二六一 3

五 50 二六一 14

金序 6 二五九 5

正 8 二五九 12

正 25 二六〇 13

四 33 二六一 3

五 50 二六一 14

金序 6 二五九 5

正 8 二五九 12

正 25 二六〇 13

四 33 二六一 3

五 50 二六一 14

金序 6 二五九 5

正 8 二五九 12

正 25 二六〇 13

四 33 二六一 3

抑文形事者、和尚既、文間普白黑白等、
令申之間義惜、由、困、定、可思食事、

注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

又弊僧之随思出申候間、

唐筆、竹筆、兔筆、葉筆之間、結様有和強。

無人氣之間、重而令申候。

我朝、高野、大師、御作候之間、

限 六畫 金序 6 二二五九 5

出世之習字者限命、世間之農桑入穴云々。

無上字者不其限。

阜部 七畫 十二 116 二二六五 4

於軍陣脇挿弓箭、

注：金沢文庫本によると、「脇」は「腋」とある。また、「挿弓箭」部分が欠損している。

阜部 八畫 四 34 二二六一 3

隆 然而且、興隆仏法、可有御存知候。

注：金沢文庫本によると、「且」の後に「者」とある。

阜部 九畫 金序 4 二二五九 5

隨 旁雖多其憚、為隨愛童情、

詩哥文等無畫者、時景季、或可令隨主好也。

次經書上書、可隨内題。

注：金沢文庫本によると、「上書」の後に「者」とある。

古文、草文、併可隨内題也。

但信草、隨主書事、常、法例也。

注：金沢文庫本によると、「常」は「當」とある。また、「書」は「之」か。

彼少童隨問狀、

又弊僧之隨思出申候間、

佳部 四畫 九 83 二二六三 10

集 委、蒼頡六十四篇与大師、筆注集、

注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六十」とある。

筆注集、被、分別、云々。

佳部 九畫 六 57 二二六一 4

難 旁雖多其憚、為隨愛童情、

然則雖俗家、能書相傳之人之假字、

雙 十畫 金序 3 二二五九 4

手習初心之時、以車雙帛為第一。

五雙紙、每面、造付文字量。

難書候之間、當時者似「無要」、

又於一切事、有難有咎。

難 又於一切事、有難有咎。 五 48 二二六一 13

注：金沢文庫本によると、「一切」の後に「之」とある。

次字難、事、者、

謂真、難、

行、短、難、

草、曲、為難也。

其趣、拂底難申候也。

依難知、乍恐、度々奉驚高聽之条、

又何様續為難書。

假字難者、

下、續、下為難。

上、字、自連後者、下、置、不、難。

委、并、不、面、談、者、難、申、盡、候、者、也。

注：日本教科書大系は、「并」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

雨部 四畫 金 12 117 二二六五 5

雲 雲出、大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。

注：「雲出」は「雲書」の誤写か。

『手習字往来』漢字索引

金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。

霧 一二蒙仰者、只雲霧、如^三見^二青天^一。 五五〇 二六一 一四

注：金沢文庫本によると、「只雲霧」は「只開雲霧」とある。

霧 十一畫 五五〇 二六一 一四

霧 一二蒙仰者、只雲霧、如^三見^二青天^一。 五五〇 二六一 一四

注：金沢文庫本によると、「只雲霧」は「只開雲霧」とある。

露 十二畫 四三九 二六一 六

垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、帛爪是也。

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。

垂露、懸針、定給、上、不可有別風情歟。 六五四 二六一 二

注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

青 如^三見^二青天^一。 五五〇 二六一 一四

非 因之為後代之少童等、任問非之次第、 金序九 二五九 六

非 非態作文者、其謬多候覽歟。 金序一〇 二五九 七

非 此二様、返、為^二非能書^一、 六五六 二六一 三

非 旁非本意。 八八一 二六一 七

面部 注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

面部 每事期面拜之時候。 正一〇 二五九 一三

面部 五雙紙、每面、造付文字量。 十 九七 二六四 四

面部 委并不面談者、難申盡候者也。 金十二 九四 二六五 一二

面部 注：日本教科書大系は、「井」を「併」とする。「再」の可能性もあるか。

音 々々々(通仕) 如^三聞^二知^一和漢音、 二一八 二六〇 六

音 十一畫 金序五 二五九 五

音 老恥天下響云々。

頁部 注：日本教科書大系によると、「天下」は「關山か」ともある。

頁部 蒼頡始字造時、六十四篇定^二文形^一。 四二九 二六一 一

頁部 蒼頡之後、烏王傳之。 四三一 二六一 二

頁部 注：日本教科書大系によると、「鳥」は金沢文庫本に「禹」とあるという。

頁部 委蒼頡六十四篇與大師筆注集、 四四〇 二六一 七

頁部 注：金沢文庫本では、「蒼頡」部分が欠損している。また、「六十四」は「六

頁部 十」とある。

頁部 九畫 抑、額、色、帛形、扇、經書、外題等、 七六八 二六一 一二

頁部 次經書上書、可隨内題。 八七八 二六一 四

頁部 古文、草文、併可隨内題也。 八七八 二六一 五

頁部 額、碑銘等之字形、令書寫之時、 三二四 二六一 〇 一

頁部 抑、額、色、帛形、扇、經書、外題等、 七六七 二六一 一

頁部 抑額字、其所素、有額。 八七二 二六一 一

頁部 抑額字、其所素、有額。 八七三 二六一 一

頁部 初額、諸寺諸社之瞻古額之躰、 八七三 二六一 一

頁部 初額、諸寺諸社之瞻古額之躰、 八七四 二六一 二

頁部 注：金沢文庫本によると、「初額」は「今初額者」とある。

頁部 名詮自性之故、依額躰所繁昌有人。 八七四 二六一 三 二

頁部 御披見類思、可令加直筆給候。 金序一 二 二五七 七

頁部 注：日本教科書大系は、「御披見之□、□思、可令加直筆給候。」とする。

頁部 十二畫 有恩顧、細々可蒙仰候。 一一一〇 二六一 四 一三

風部 垂露、懸針、定給、上、不可有別風情歟。 六五五 二六一 二

風部 注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

風部 風 垂露、懸針、定給、上、不可有別風情歟。 六五五 二六一 二

風部 注：金沢文庫本によると、「針」は「計」とある。

飛部

大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。 四三六 二二六一 5

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。

食部

祐幸素、如被知食、 正七 二二五九 12

令申押返之条、狹所可思食事歟。 五四四 二二六一 11

令申之間義惜、由困定可思食事、 八八一 二二六三 6

注：金沢文庫本によると、「食」の後に「候」とある。

皆人、被知食事也。 十二一三 二二六五 3

食部

餘、不通一歟。 二一八 二二六〇 6

馬部

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。 九八八 二二六三 12

骨部

行者、真假脉、草骨目也。 二一六 二二六〇 5

高部

可有御高覽候歟。 四四一 二二六一 7

度々奉驚高聽之条、為恐尤不少候事候。 九八八 二二六三 12

誠依少童、愛憐、聊不恐高覽。 一一一〇五 二二六四 11

我朝、高野、大師、御作候之間、 一二二一一 二二六五 3

故節高無續、有文字形。 金十二 二二六五 10

注：日本教科書大系は、「續」を「續」とする。

髟部

右依少髟之要用、 金序一 二二五九 4

魚部

垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、牝爪是也。 四三九 二二六一 7

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。

魚部

十二畫

鱗

垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、牝爪是也。 四三九 二二六一 7

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。

鳥部

大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。 四三六 二二六一 5

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。

鳥部

垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、牝爪是也。 四三九 二二六一 6

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。

鳥部

垂露、返鵲、迴鸞、魚鱗、牝爪是也。 四三九 二二六一 6

注：金沢文庫本によると、「是」部分が欠損している。

黑部

和尚既、文間普白黑白等、 六五四 二二六一 2

黑部

點、五畫、 四三八 二二六一 6

注：金沢文庫本では、「是」部分が欠損している。

齒部

齡者大臣之間、 四三三 二二六一 3

齡書内、畧點、朽書等是也。 四三七 二二六一 6

注：金沢文庫本によると、「齡」は「絲」とある。また、「是」部分が欠損している。

龍部

大篆、小篆、飛鳥、龍水等是也。 四三六 二二六一 5

注：金沢文庫本では、「篆飛鳥」部分が欠損している。

判読不能文字

() 又筆、○筆、卷上、筒筆、唐筆、 九八五 二二六三 11

注：○は、「私」か。「和」の可能性があるか。